京城日報
（一其）
日本十二

陽光元日の空に輝き 國運の隆昌を象徵

半島の元旦は陽光麗かに、迎春の氣持を彌やが上にも朗らかにしたが今春こそは全國民が久しく御待ち申上げたる天津日嗣の御子、皇太子殿下の御降誕といふ宮中御慶事の日出度さが人々の心の中に包まれ元日の朝に隆々として昇りゆく朝日影は我が皇室の御繁榮と國運の隆昌を象徵するが如く誠に喜びそのものに滿ちあふれた

賑かな本府拜賀式
外國使臣も續々參賀

本府に於ける元旦の式は勅任官以上の總員によつて行はれた、宇垣總督は金色燦然たる陸軍大將の正裝、今井田總監及各局長は何れも金ピカの大禮服、以下何れも燕尾服モーニングの正裝を着用に及んで午前十一時第一會議室に參集した、一方宇垣總督は午前十時五十分から高等官食堂に於てロイツ英國總領事を初め在京外國使臣の參賀を受けた後、同十一時廿分第一會議室に臨席し、全員と共に御眞影を拜し、次で大ホールに於て祝酒を酌んで宇垣總督の發聲一聲高く「君が代」を合唱し萬歳を揚げて散會し、同十一時半目出度く元旦の式を終つた

總督官邸の新春
絶え間なき參賀客

六十七歳の春を迎へた宇垣總督は新春と共に益々若返るかの如きめでたき健康な顔である、早起の總督は東天の白む頃既に起床齋戒沐浴して東天を拜し、定刻に至れば陸軍大將の禮裝に着換へ午前十時矢野秘書官を伴ひ自動車を驅り朝鮮神宮に參拜、次で直ちに總督府の拜賀式に臨んだ、式後總督官邸に歸還した總督は團參賀客の絶え間なく賀詞を述べ、數千の賀状は山と積まれ、邸内は人で溢るるが如き光景を呈した

大賑ひの政務總監官邸

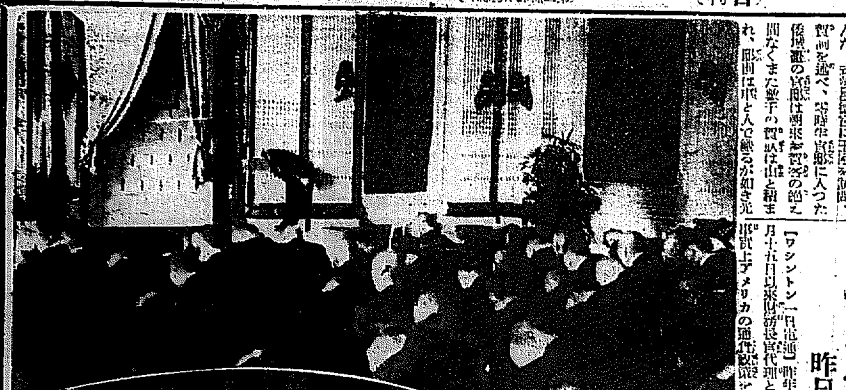
今井田總監は宇垣總督に倣いて午前十時朝鮮神宮に參拜次で總督と共に總督府の拜賀式に臨み式後龍山の軍司令官々邸に年賀の挨拶をなし、更に總督官邸を訪問正午自邸に戻るや和服に寛いで自ら食堂に出馬して盛んに祝盃をあげて賀客を接待したので、食堂は大賑ひを呈した

ヤング博士
一兩日中に來城

滿洲事變に際し國際聯盟調査員として問題調査に活躍したゼームス・アール・ヤング博士は、支那、滿洲國を經て一兩日中に來城、朝鮮ホテルに投宿する旨、目下通知があつた

米財務長官
モルゲンソー氏
昨日就任宣誓式擧行

【ワシントン一日同盟】昨年十一月十五日以來財務長官代理として事實上アメリカの通貨政策を運用したヘンリー、モルゲンソー氏は一月一日附を以て正式に財務長官に就任し、病臥休養中のウーデン前財務長官は同時に正式に辭任せられた、モルゲンソー氏の就任宣誓式は一日朝ホワイトハウスに於てルーズヴェルト大統領臨席の下にモルゲンソー夫人以下列席の上行はれたが、ルーズヴェルト大統領は右ウーデン氏の辭任に就き正式に聲明を發し更迭の理由がインフレーション問題に關聯して財界に意外の刺戟を及ぼすことを慮り、ウーデン前長官の辭任が全く健康に基くものであることを明示するため、大統領とウーデン氏間に交換された書翰を公表した、それによると同氏が正式に辭表を提出したのは十二月十三日で、健康の回復ならざることを詳述して遂に辭任の許可を乞ふたものであり、これに對する二十日附の大統領の返翰は「君の辭任は予にとつて大なる悲しみであるが、國家がこれ以上君の健康を害されることは予の忍ぶ能はざる所であり、願くは充分靜養され一日も早く回復されんことを望む、而してその日來らば國家のため再び奉仕を求めるであらう」と手厚い言葉を述べてゐる



寫眞說明（上）本府拜賀式（中）朝鮮神宮參拜の宇垣總督（右）と今井田政務總監（下）京城公會堂に於ける名刺交換會

日印商會

印度側、日本案を條件附で承認
代表部直ちに請訓

【デリー卅一日發】一日印會商に於ける最後案として日本側が提出した最終案たる綿布輸出量を決定せんとするもので、印度側はこの案に多少の技術的修正を加へある種の條件を附したものと解される、なほこれを日本が承認すれば改めて本會議にかけてすべての決定を見る段取りである

〔又〕初年度割當量に關し回答を留保してゐた印度側は、三十一日午後一時過ぎに至り我方に文書により回答し來り、原則として日本の第一案を承認したが或る種の條件が附されてあり日本は印度側の右修正をその儘受諾することは出來ないが、考慮の價値があるので直ちに請訓するに決した、第一案は一月より向ふ一ヶ年間の綿花を基準とし、これにより四月より向ふ一ヶ年の綿布輸出量を定めるもので、商も愈々最後の全部に亘つて成立を見る譯なので、商工省では吉野次官を初め寺尾通商局長、中島貿易局長等關係官は休暇中にも拘らずその後に來るべき輸出輸入統制問題等につき研究中であるが、各種業界代表部即ち貿易協會、紡績聯合會、綿布輸出組合等の代表者を同省に招致し官民懇談會を開催し日印會商の決定事項を總括的に說明すると共に初年度綿布輸出數量の各内地業者への割當方法、其他對印綿布輸出統制の實行方法等に就き協議をなす筈である

御用始め早々
官民懇談會

【東京電話】對印綿布輸出初年度割當問題の決定に依つて、三ヶ月餘に亘りもみにもみ抜いた日印會商も愈々最後の全部に亘つて成立を見る譯なので、御用始め早々の六日或は八日に懇談會を開く筈

米海軍の編隊大飛行
來る十一日決行
サ・ホ間無着水で

【ホノルル三十日發】アメリカ海軍飛行隊のサンフランシスコ、ホノルル間六機編隊無着水飛行の劃期的壯擧は目下着々準備が整へられてゐるので愈々一月十一日決行せらるることとなつた、サンフランシスコ、ホノルル間は二千八十四哩あるが廿四時間以内で飛破する意込みであるとな在海軍航空局長キング少將はこれを要望して左の如く語つた

今回の編隊飛行は海軍飛行隊の任務にあるアメリカ海軍機ならびに飛行將校の能力を測定すべき好機であり特に強調する必要がある

澤田、ボア兩代表會商

【デリー一日發】聞するに三十一日印度側よりの回答につき行はれた澤田、ボア兩代表の私的交渉の結果、雙方の意見一致し協定の大綱が成立すれば日印會商終了前に綿も日本が印綿不買を停止した場合、印度側も直に輸出關稅引下を決行し同時に輸出關稅實施に入ることに決定した

米海軍の兵員
擴充を進言
航海局長リ少將から

【ワシントン三十一日發】アメリカ海軍を條約所定の限度まで擴張せんとする大艦艦建造案が三日の議會に上程されることとなり、各國の注目を集めてゐる折柄、アメリカ海軍省航海局長リハイ少將は三十一日スワンソン海軍長官に對し、アメリカ海軍兵員が節約政策の結果定員數より甚しく減少してゐる事實を指摘し艦隊兵員の擴充策の必要を進言して左の如く述べた

アメリカ海軍の乘組員は節約政策の結果著しく減少し、現在の兵員補充を以てしては常に軍事的能率の點から言つても不充分なのみでなく、一朝有事の際に國防上の見地から寔に危險極まるところである

アメリカ議會
愈よ三日開會
早くも波瀾を豫想

【ワシントン二日發】アメリカ第七十三議會通常會議は愈よ三日より開會される事となつた、之は去る三十二年三月第七十二議會に提示された憲法第二十條修正の結果開會される最初の會議である、昨年ルーズヴェルト大統領就任直後開會された第七十三議會臨時會議は、六月十五日まで開會され景氣回復のため諸法案を大統領に附與し、その結果合衆國經濟界以來の大變動な經濟異動が開始されるに至つたが、その大部分は大統領の緊急臨時處置に待つもので、而してその産業復興計畫等は各方面より非難を受けてゐる點もあり、ルーズヴェルト大統領の手腕に就てもなほ多くの疑問がある、殊にストファード氏を始め有力實業家もルーズヴェルト大統領の施政に慊らざるものがあり、明日よりの議會にも相當反對の聲を反映して波瀾なき事は豫想されぬ、一方保守派はなかなか疑ひないと見られ、今議會は早くも波瀾を豫想されてゐる

佐々木安五郎氏

【東京電話】普選運動者として鳴らした元代議士佐々木安五郎氏は荏原郡來高橋の自宅にあつて療養中であつたが一月午前十時逝去した享年六十三、同氏は山口縣の出身で同縣下から二回、更に東京第四區から一回衆議院議員に選出され、少壯時は滿洲浪人として活躍し晩年は熱辯家として名を馳せた、葬儀は十八日午後一時から下谷區谷中齋場で執行さる

小倉常吉翁逝去

【東京電話】石油功勞者として我が國實業界の重鎮小倉石油株式會社々長小倉常吉翁は、既報の如く熱海の別邸にて風邪に肺炎を併發して一月午前五時三十分逝去し、享年七十歳、來る四日芝増上寺に於いて午後二時より三時までの間告別式擧行の筈

メ博士逝去

【ベルリン卅一日發】國際決濟銀行副總裁メルヒオール博士は三十一日逝去した、享年六十二

滿鐵改組など
企畫してゐぬ
關東軍の質問に回答しただけ
林滿鐵總裁入城談

東京に於て開催された滿鐵關係株主總會に出席のため東上中であつた滿鐵總裁林博太郎伯は、關東軍司令官、今井田政務總監、川島軍司令官等と午前十時半京城驛着列車で京城に入り、同夜九時十分發列車で歸連するが、途中朝鮮ホテルに少憩後、語る

滿鐵の改組問題は目下政府當局に於て種々考究中で、滿鐵改組案なるものは世間で噂されることになつたが、滿鐵としては何等企畫してゐるものではない、關東軍が何かの參考のため照會して來た事項に回答したのみである、然し何所の如何にかゝはらず滿鐵は非常時に對する準備だけはして行つたが、東上の結果は不用に終つた次第であるその、監督官廳や滿鐵首腦たる者は必要に應じて現地を知らしめるものであるが、總裁の地位には何等の關係もない、又改組案がどんな形式で議會に出るとしても、滿鐵自體は一向知らぬ事で目下の滿鐵の具體案など云ふものを持つた譯でもない

軍部としても何も急ぐ必要はなく、貴族院方面で僕が不滿を招いて辭めるんぢやないかと云ふ噂もあるが、そんな空氣はちつとも無い、或は何等か持にする者の仕業だらう、誠に朗かな氣持で社務に邁進してゆくつもりである

通信事業特別會計
明年度豫算

【東京電話】遞信省議＝通信事業特別會計明年度豫算は初めて實施されることとて大藏、遞信兩省間の折衝がかなり難航したが、大體左の如く決定を見た（單位千圓）

▲業務勘定
歳入　二七三、三一四
歳出　二六四、一一六
▲用品勘定
歳入　四四、四七
歳出　四四、四七

總督府圖書館
五日から開館

總督府圖書館では年末年始休館中であつたが新年度の開館に際し書庫に於て整理を行ひ閱覽の方法につき意見を聽取し一月五日より平常通り開館する筈

元朝ところどころ

【龍山】龍山の軍部、官廳の元朝拜賀はそれぞれ午前十時から十一時の間に行はれたが十九聯隊司令部では正午商工會議所に於て互禮會を催した、なほ官民合同恒例の新年會は午後一時半から邑事務所會議室において擧行、軍部、官民多數の參加あり、盛大であつた

◇

【平壤】午前十時より府廳道廳を始め軍隊各官衙學校は御眞影拜賀式を行ひ一般府民は同十時廿分より府廳前廣場において新年拜賀式を行つて聖壽の萬歲を壽ぎ奉り正午公會堂にて五團體主催國歌合唱、團體一同の挨拶あつて藤原知事の發聲で萬歲三唱して祝宴に入り盛會を極めて散會した

◇

【元山】あやに畏き日嗣の御子の生れ給ひしとも目出度き元旦を迎へた元山は朝來より快晴、此日氣溫零下十度六分、午前十時より

國境に揭揚塔

【新義州】威北の邦都國境の住民はかねて國旗揭揚塔建設の計畫をすゝめ新義州中央公園に八十尺の高塔を建設することになり、押迫つて竣工したので、瑞氣罩むる元旦厳かな揭揚式を擧行した

十時迄の間に於て府では拜賀式を擧行府民多數參列し其他各學校官衙に於いても同時刻拜賀式遙拜式を擧げ正午よりは恒例による官民合同の全市民合同新年互禮會が商工會議所で開催された、参會者五百餘名正午のサイレンを合圖に後藤府尹の發聲で聖壽萬歲を三唱して閉會した

京師準決勝で
苦工に惜敗

【日光電話】第四回全國中等學校スケート大會最終日アイスホッケーは三十一日午前九時四十五分日光細尾リンクに於て準決勝から開始された中等校決勝は上位の決勝と見られる苦小牧工業京師の試合は苦小牧が前年の覇者たる京師を二對一で破つた

苦工 2 （1—1 / 1—0）1 京師

アイスホッケー決勝戰は三十一日午後三時五十分から細尾リンクで擧行されたが中等校決勝戰苦小牧工業對札幌師範は苦小牧工業が強靭成球を破り、結局苦工はスピードホッケーに徹し今シーズンの中等校の覇權を獲得し二高もホスピードホッケーの二冠目に高校の王座を占め斯くて優勝杯授與式あり大會は無事終了した

ドン底に揚る凱歌 更生の生活第一頁

學校や新職場も生れ出た新天地 土幕大衆に巡り來た春

もうあのドン底生活は――土幕民たちが迎へる新昭和九年の初春は殊のほか朗かである、ダニのやうに大地に喰ひづき[illegible]のかまぼこの中に[illegible]あるかなきかの生活を營んで來た朝鮮土幕民たちは、近代都市生活の發展の[illegible]に追ひ立てられ[illegible]、彼らの「地[illegible]」たちよ、生活問題を[illegible]つゞけてゐるが昭和八年[illegible]京城[illegible]阿峴里方面の約六百戸三千人の土幕民たちもはすこのイザコザを[illegible]離れがたき「土地」を棄て[illegible]あとから新天地へ移轉した

ことになつたが？これにつゞいて[illegible]の一角に[illegible]の姿――！ 見よ土幕民たちは地下から這ひ上り[illegible]に起ち上り、[illegible]一本、[illegible]一本で[illegible]流と[illegible]を迎へる[illegible]る、彼らは、一戸につき十坪の[illegible]地を無償で與へられた、いまは[illegible]ひ立てられる者もない、彼らの八十パーセントは自由勞働者であるが[illegible]けて、月に三四圓から十四五圓の收入を得る、この初春からは[illegible]がかつての[illegible]受け[illegible]の製造[illegible]二十人を使用する[illegible]打をはじめいろ〳〵な[illegible]が續々建てられるはずで、やがては、こゝに小工場街が出現されるわけだ

×

この[illegible]には、[illegible]だ[illegible]、[illegible]た花嫁が[illegible]、自殺を遂げ[illegible]ものだけは、新しく建つた和光學校に入學、いまは四學級五百六十名ある

×

元日の朝、その一軒を訪ねて――どうです、住心地は？

『非常にいゝです、なにしろ[illegible]ひ立てられてゐましたが、今はその心配はないし、仕事もどうやらありますし…あれに、この村にも仕事場が出來るといふことです、[illegible]みると[illegible]はやつぱりいゝです、子供にはよい學校ができたし、こんなうれしいお正月を迎へたことはありません』(避難途上の[illegible])

インフレ、[illegible]、[illegible]の[illegible]でグツと盛りあがつた三三年の年末景氣がそのまゝより切つて[illegible] 昭和九年

見ろ初荷の大示威

赤手拭に紺のハッピも勇し 樂隊入りの二日の新景氣

新春 の商界にあがつた、見ろ勝鬨に山なす初荷の示威を！明へ飲めやの元旦も暮れて、ちらほら踊る千鳥足、鬨の勢揃ひざく二日の朝まだき、エッサ、ヤッサのかけ聲勇ましく、まづ初荷のトップを切つた[illegible]の赤旗行列が南大門を俺に下つた、赤手拭に紺の印袢てん威勢のいゝ[illegible]上にまたがり行進の音頭とる、ふが景氣の初日の出――サッサ……豪壯たる景氣、朗かな[illegible]、[illegible]人にも劣らぬ商戰の[illegible]勇士張だ、續いて[illegible]

酒屋 の初荷行進曲が朝の街頭を賑はした、大小彩る[illegible]『の旗にペラ〳〵ビー』の景氣の[illegible]朝鮮音樂隊が[illegible]調子を合せて、[illegible]大門、黄金町、鍾路、の午前中はどえらい初景氣だ、[illegible]三ッ、初の門出を祝福して[illegible]を中心に[illegible]、サッと彼方に姿をけせば店をあけたばかりの商店街では

福箱 の[illegible]しく初商りの字。呼び[illegible]まじい、かくし

仁川は 萬歳で練る

【仁川】新春を迎へ、商賣繁昌を祈る吉例の仁川初荷は朝日釀造會社の金剛[illegible]を先頭に[illegible]釀造の[illegible]、[illegible]屋の[illegible]商店のヒサゴ正宗[illegible]醸造のブドウ酒[illegible]其他各精米所がトラックや牛車にそれ〳〵[illegible]商店の[illegible]旗をなびかせつゝ[illegible]三唱して市中をねつて[illegible]景氣のよさはまさに朗らかな[illegible]行進曲であつた

京城驛賑ふ 『大吉』縁起

荷も客もワンサ押かく 潮に乗つた鐵道

二日京城驛頭にドッと押し寄せた初荷の山は[illegible]で三千トン[illegible]、雜貨、金物[illegible]主として荷造りも賑やかに係員を[illegible]させた

到着では、石炭、松材の山積みでおよそ[illegible]三百トン、先づ六千トン近くの貨物が初荷としての鐵道の貨物[illegible]のトップを切つたわけである

幸晴らしい [illegible]方乗降客は一日[illegible]

[illegible]産にホク〳〵もので[illegible]先頭に五十名の乗客が流れ込み[illegible]これと交錯して下車した[illegible]千六百、この[illegible]八千[illegible]ない[illegible]した

城大勝つ

目下滿洲[illegible]てゐる城大スケート部[illegible]は去る廿七日新京に到着し廿八日午後[illegible]から新京西公園リンクで新京商業とアイスホッケー戰を行つたがその結果[illegible]で城大勝つた

城大 [illegible]

十圓拾ふ

一日午後[illegible]府内[illegible]上で[illegible]十圓[illegible]の財布を[illegible]

元日泥棒

京畿道[illegible]十一番地[illegible]は一日午前[illegible]

賀正 [illegible]町 大和軒

幸先よき

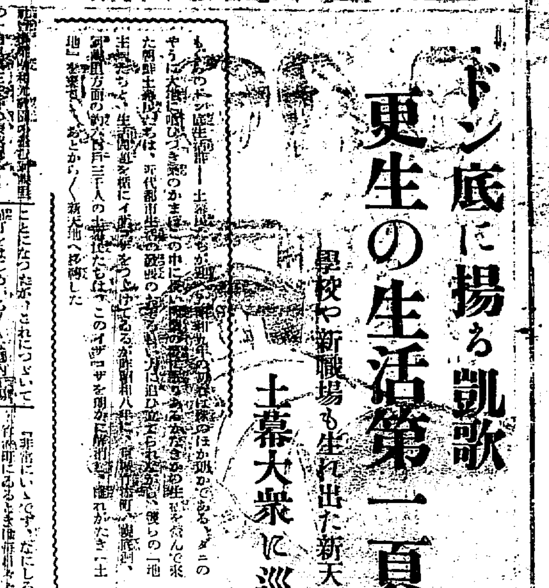
[illegible]大阪[illegible]中間大[illegible]として[illegible]途上にある朝鮮[illegible]『大吉』の縁起をひきあて[illegible]好況の潮に乗る活況を示すことになつた

銀嶺に躍る

三防や瑙井里 スキー萬歳 スケートも直ぐだ

[illegible]とは[illegible]、これ迄はスケートファン[illegible]して[illegible]ファン[illegible]スキーヤ[illegible]……正月に入[illegible]本調子の本ものと[illegible]に押し寄せて來たのであらう[illegible]旦が[illegible]して[illegible]可成りに寒かつた[illegible]さてこの寒さで[illegible]ウインタースポーツファンの[illegible]あるこの寒氣で[illegible]が張られ昌慶苑も[illegible]されたが[illegible]昌慶苑もまだ休み、だから[illegible]もう四五日すれば[illegible]池がスケート[illegible]として開放される

[illegible]の[illegible]かけての公休を利して三防方面に[illegible]ファン[illegible]、子[illegible]、瑙井里[illegible]はなくなる、非常な[illegible]その[illegible]、雪のふりぶりよく[illegible]五十[illegible]位で[illegible]コンディションとは[illegible]ったスキーヤーの話[illegible]するところ[illegible]飛ばして[illegible]から正月[illegible]分[illegible]描かれてゐる



あすの豫想

満洲に[illegible]低く[illegible]の小低氣壓は[illegible]東南東に進行して[illegible]北では今日[illegible]から小雪模様となる恐れあり明日も[illegible]を除いては[illegible]復する見込みである

雪のお花畑金剛山

女もまぢり元旦から踏破

[illegible]水銀柱はマイナス二十度に[illegible]して[illegible]一萬二千の奇峰金剛山はふかぶかと降つた白雪にメーター・アップしてゐのお花畑と[illegible]つた[illegible]の[illegible]空に[illegible]浮び出た金剛は[illegible]しく初日に映えて山を愛する人々やスキーヤーの心を[illegible]らしてゐる、本年からは地元の[illegible]の肝入りで[illegible]から[illegible]へ通ずる[illegible]の[illegible]に[illegible]で一人[illegible]を[illegible]するなど女もまぢる[illegible]が次から次に押しかけてゐる(寫眞は長安寺萬川橋から[illegible]を望む)

夜のない街・鰯の街

踊る桃いろ混線

海幸の王座長箭の巻(2)

われらが初春自慢(二)

[illegible]陸につけ[illegible]したその[illegible]から[illegible]け出した[illegible]の流[illegible]たる[illegible]さを見せて思ひ切り[illegible]つた[illegible]女は[illegible]に[illegible]である、[illegible]める[illegible]には[illegible]また一人り、これも[illegible]にしても[illegible]の[illegible]中に[illegible]賑香がチラホラするとは[illegible]酒をきく[illegible]何んとく〳〵[illegible]長箭に[illegible]てゐるといふ、そして[illegible]

の[illegible]師と合せて約五十名、[illegible]の[illegible]師が約三百人北は、元山[illegible]南は[illegible]からワンサ〳〵と押しかけて『[illegible]』に[illegible]つけてゐるのださうだ、こんな[illegible]海店を客は切れない、[illegible]けてスリチピは[illegible]に[illegible]て五十ン〳〵お祭り騒ぎでチン〳〵トンといふ踊りに浮かれる、だから[illegible]色事件も[illegible]すれば[illegible]對も[illegible]十組が生れてゐる

レストランで[illegible]をつかひながら旅の[illegible]やすさで、同テーブルの三十からみ[illegible]の客[illegible]景気もいゝんで[illegible]の日中に[illegible]と話かけたら、[illegible]氏はニヤニヤしながら[illegible]の日中[illegible]で、旦那、それりや酒は[illegible]なしでせうから、複番のものは[illegible]せうよ、この景氣ぢやと[illegible]〳〵してきて日[illegible]、ハヽヽと來た、百パーセントの[illegible]である

時に[illegible]の[illegible]者は[illegible]すれ[illegible]通せるでせうが[illegible]ありませんか ハヽヽツてれや旦那[illegible]で日足[illegible]よ、[illegible]なんぞ[illegible]なんぢやありませんや[illegible]長箭[illegible]

その時[illegible]入つて來たものが後ろのテーブルにゐた[illegible]女史が[illegible]を通て――[illegible]さん、すさまじいわね、どうせ[illegible]

長箭は[illegible]、そこを[illegible]牛馬が[illegible]して通る、ズルリと[illegible]つて[illegible]かと思へば[illegible]んでゐる[illegible]行つてズルリ、五歩歩いてはズルリ、[illegible]しでいへばこれ[illegible]だ、これで[illegible]に大漁であるから[illegible]るであらう

―◇―

[illegible]の長箭それは酒の長箭だ[illegible]の長[illegible]だ、[illegible]りの長箭である、だから[illegible]などは[illegible]を[illegible]時間をのぞいては[illegible]して[illegible]かも[illegible]を[illegible]入[illegible]出來るやうになつてゐる[illegible]

遞田畫伯の小品展

[illegible]半島[illegible]の[illegible]遞田[illegible]は[illegible]日から[illegible]間[illegible]で[illegible]ンアミ[illegible]洋畫小品展を開催[illegible]出品畫は[illegible]十數點である

本社主催 第十回 冬期體育講習會 [illegible]

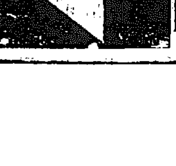
官製の補血強壯劑 蔘精 (人蔘エキス)

外交時報

外交工作とは何ぞや		半澤玉城
現國際情勢と列國	法學博士	松田道一
國際聯盟改造問題	帝大教授	蠟山政道
世界變局と王道精神		田崎仁義
海洋自由の行衛	外務書記官	寺島廣文
滿洲とパナマ		立作太郎
獨立二年後の滿洲	法學博士	松波仁一郎
東鐵買收外交の失敗	法學博士	永雄策郎
國民ポリセズム	前參事官	花岡止郎
世界大戰勃發回顧		皆川鐸彦
支那の新對日政策	陸軍少將	磯谷廉介
國民政府の落勢		大西齋
三國干渉と支那	文學博士	矢野仁一
黄郛政權の檢討		尾崎剛
新疆問題の全貌		波多野乾一
米國の亞細亞政策	海軍少將	日比野正治
日米問題と經濟難	法學博士	大山卯次郎
列國海軍情勢	海軍大佐	關根郡平
一般軍縮と化學戰		榎本重治
米國のカリビヤ政策	法學博士	和田繭純
ユデア對獨逸民族		高木友三郎
英國前外相グレー	早大教授	煙山專太郎
經濟と外交の交錯	商大教授	生島廣治郎
日印會商の檢討	同志大教授	林要
外債と國際法		田村幸策

新春倍大號・本號一圓 外交時報社

ユアサ電池
自動車用・無線用・照明用・陸用・海軍用・鐵道用・電信用
代理店 城東電池商會



賀正
三越
四日・五日・兩日限・全店
年頭初賣出し
現金一圓以上御買上の方に、吉例お年玉を進呈
ウインタースポーツ用品賣出し 三階
春向新柄銘仙賣出し 二階
春向小紋モス着尺陳列 二階
主催 朝鮮教育新聞社
全鮮生徒書き初め展覽會
四日より七日まで・五階ギャラリーにて
京城 三越

初笑ひ漫畫天國

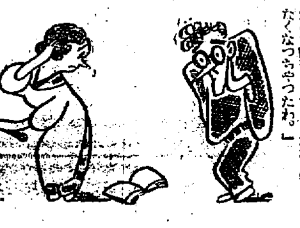
外科醫

囚人「外科手術に就いて、何か經驗がおありですか？」
學者「あります。僕は自分で顔を剃るんです。」

愛犬家の門松　田代
——今年は戌年と云ふんですが……

心細い

「あらッ！だから臺所へ來ちゃいやッていつてあるのに！ぶらんないよ、御料理の本を床へ落しちやつて、どこが開けてあつたか判らなくなつたぢやないの？このためた肉をどうするんだか、判らなくなつちやつたわ。」



演藝案内

大正館　大滿蒙　……　初陣　……　嬉しい頃　……

園成社　私の重役様よ　……　男子戦はざるべからず

東亞倶樂部　鳴子八天狗　……

喜樂館　討つ代隊　……　永鄕の唄　……　東京祭　……

中央館　風雲　……　青春街　……　越後獅子の兄弟　……

京龍館　風流やくざ節　……　二原は晴れて　……　氣者　……

京城演藝館　女流浪曲の王座　小園嬢　……

浪花館　……

朝日座　海賊　……　彼女のイット　……　暗黒街の顔役　……　樋口次郎　春日新九郎　小川隆　……

[illegible]

出帆

仁川出帆豫定　……

鮮航同盟會　仁川支部

大阪商船定期出帆　……　北鮮阪神　……　北鮮豪華行　……　大連內地直行　……　門司基隆直行　……

名古屋行　……　**大阪行**　……　**敦賀行**　……　**伏木七尾行**　……　**浦鹽行**　……　**汪文津行**　……　**鹿兒島行**　……　**上海青島行**　……　**青島行**　……　**大連行**　……　**日本郵船定期出帆**　……

朝鮮郵船株式會社

大阪商船株式會社　仁川支店　……　**北鮮運輸會社**　……　**釜山商船組**　……

阿波共同汽船出帆　利通號　……　共同丸　……　長山丸　……

朝鮮郵船定期出帆　……　野口商會　……

仁川汽船　……

島谷汽船株式會社　仁川出張所

日滿新捷路　……

雄基出帆　……　**清津出帆**　……　**城津出帆**　……　**西湖津出帆**　……　**興南出帆**　……　**元山出帆**　……

新潟出帆　新潟、北海道、北鮮線　……　**浦項出帆**　……　**釜山出帆**　……　**木浦出帆**　……　**群山出帆**　……　**裏日本、北海道、樺太行**　……　**大連直航**　……　**仁川出帆**　……　**鎮南浦出帆**　……　**朝鮮、北海道大連線**　……

嶋谷汽船定期出帆　……

仁川汽船會社

[illegible]

正月の衛生
食べすぎ飲みすぎと二日醉の手當
腹こはし、下痢、慢性胃腸病の療法

縁起も榮養もよい正月料理

およそ喜ばしいものは、日の本のお正月料理でせう。――昆布がヨロコブに通じ、大豆、田作がマメ（健康の意）に通じ、數の子が子孫繁榮を意味し、屠蘇の酒は百藥の長といひ、勝栗はカツといふ縁起を祝つたもの――。

しかもこれらの食物は、榮養分が多いので、保健上にもまことに結構ですが、兎角お正月は食べ過ぎ飲み過ぎの上に、運動不足に陥り易く、その爲にお腹を毀して下痢したり、胃にもたれたり、二日醉ひして心身ともに倦怠を覺えたりする、よからぬ現象が少くないのは感心いたしません。

それも手當が早ければ、何でもないものを、手當が遅れたり誤つたりして遂にコジらせ、慢性の胃腸病としてしまふに到つては、折角縁起を祝つた正月料理も病氣の因となつてしまひます。

二日醉ひの病理とその手當

醫學上からいへば、二日醉ひは急性アルコール中毒と、胃カタルを併發したものです。アルコールは元來、よく吸收されて、速かに尿中に排泄される性質のものですが、多く飲み過ぎると、これを吸收して排泄する働きが間に合はなくなり、其爲にアルコールが體内に長く停滯して中毒を起し、所謂二日醉ひの徴候を現はします。

ですから二日醉ひは、これを治すにも防ぐにも、飲んだアルコールを早く體外に出して了ふ働き、つまり體の新陳代謝作用を活潑にするのが第一です。――東京帝大の藥學博士名譽教授が、ヘーツエといふ微生物から得られた「錠劑わかもと」といふ藥が、二日醉ひにいいといふので、飲酒家の間で大いに愛用されてゐますが、これはヘーツエの有つ、多種の活性酵素の働きによつて、新陳代謝が促進されると同時に、利尿作用を有するプリン鹽基が、ヘーツエ蛋白から生成されるからだと考へられてをります。

食べすぎの手當

食べ過ぎて胃にもたれたり、消化不良に陥つたりすると、誰でもヂヤスターゼを、無二の良藥の様に用ひますが、ヂヤスターゼの消化するのは澱粉だけで、食べた物の一部分に過ぎませんから、消化劑として決して萬全な物とは云へません。

所が「錠劑わかもと」には、ヂヤスターゼは勿論、お正月料理に澤山含まれてゐる蛋白質を消化する、プロテアーゼといふ酵素や、脂肪を消化するリパーゼといふ酵素を含んでゐて、あらゆる食物の消化、吸收を助ける許りでなく、衰弱してゐる胃腸の組織細胞に、再生の活力を與へる多種の活性酵素を含んでゐますので、食べ過ぎ飲み過ぎから起つた胃腸病は素より、慢性の胃腸病で困つてゐる場合でも、胃腸の機能を病原から恢復して、治癒に向はしめる効果は臨床醫家の、齊しく認めてをる所であります。

乳兒の便秘

便秘の時、醫師の手を經ないで、自分で下劑や浣腸藥を用ひて、直腸炎など起す事は、大人の場合でも屢々ありますが、特に乳兒の場合この危險は一層多いのです。

家庭で乳兒の便秘を治す、最も安全な方法は、授乳の際に、「錠劑わかもと」二、三錠を碎いて少しづつ與へ、人工哺育の場合は、牛乳や重湯の哺育料中に、四、五錠宛碎いて入れてやるとよろしいのです。

「錠劑わかもと」中には、多くの消化酵素があつて、胃腸の具合を整へ、便通をつける許りでなく、ヴイタミンBやDが多くあつて、乳兒の發育を促進し、脚氣病患を防ぐことが出來るのです。

胸やけを癒すには
重曹劑の濫用は惡い

食後胸やけがするとか、胃に痞へ感があつて、食事時になつても、お腹が空かないといふ方がありますが、これは明かに胃腸病の症候の一つで、胸やけするのは、胃腸病でも特に

難症とされる

胃酸過多症に最も多く、胃下垂の疑ひも多分にあります。胃酸過多症は、胃液の分泌を司どる胃壁の細胞機能に異變を來し、その結果、胃液中に鹽酸が過剰となる病氣であつて、胸やけがしたり、胃が痛んだりするのは、鹽酸の刺戟によるのです。

胸やけには從來、重曹劑が用ひられ、素人でも自分で重曹劑を買つて服んだりしますが、かうすると一時は鹽酸が中和されて、胸やけが止まりますが、重曹は分解すると炭酸瓦斯を發生し、これが更に胃壁を刺戟して、鹽酸の分泌を促すので、却て

病勢を惡化する

ことがわかりましたので、有名な帝大の眞鍋教授等は、胃酸過多症に重曹劑を用ひる事を、非常に嫌忌されてゐます。

近來經驗ある醫師達は、こんな場合にも、ヘーツエ菌で出來てゐる「錠劑わかもと」の服用を勸めますが、これは「錠劑わかもと」が、胃液の鹽酸を中和する成分を持つてゐる事にも起因するが、それよりも、變調を來してゐる胃壁の細胞に働きかけて、異常に亢進してゐる機能を、正常に恢復する効果があるによるのです。又一面「錠劑わかもと」には消化を促進する成分もあつて、胃酸過多のみならず、胃アトニーや胃下垂等の腹部膨滿感も自然に消え

空腹感を覺える

様になります。殊に、在來の化學製劑と違つて、副作用がなく、長く服用しても習慣性がないので、一般に愛用されてをります。

この優れた作物藥を、ヘーツエといふ菌體から發見されたのは、一に澤村名譽教授の苦心の賜物ですが、其普及を期して、廿五日分一個六十錢、八十三日分五圓、徳用ポケット瓶五十錢といふ非常な廉價で、東京市芝區愛宕下大門内、榮養と育兒の會（振替東京一七〇〇番）から頒布する様にされました。各地方へ栗價だけ振込めば、一瓶でも送料同會負擔で急送されますが、便宜上各地の藥店でも取次ぎます。

肺病を併發した
胃酸過多症が
東京　山井惣一郎

（前略）私は小さい時より、平生至極にも極く健康體にて、何の病も知りませんでしたが、廿歳の頃より、時々胸のやけるのを覺える様になりました。どうした事か、大分肥つてゐた身體も

徴兵　檢査の時には體重が減じて、不合格でした。

この年の秋から、熱々胸のやけるのが激しくなり、空腹時には酸つぱい水が込みあげて來たり、胸から胃の中がジヤー〜と痛むのです。（中略）『胃酸過多症』だからといつて、（中略）それより後は病名がわかりましたので、人に聞いて、あれこれと、人のよいと云ふ物を買求めて服用したり（中略）、大凡の藥は皆試みて見た許りにて、[illegible]を病む様になりました。[illegible]は

絶望　のどん底につき落されましたが、天の助けとも今は感謝してゐるのですが、ある時知人の勸めにいや〜ながらも「錠劑わかもと」を買求めて服用し始めました。廿五日分一瓶も（中略）二瓶目を半分程服用しかけて、食慾の出て來た事や、酸つぱい水の上げなくなつて來た事に氣がつき驚きました。（中略）もう半歳以上もあの胸の痛み、[illegible]しい胸痛など、[illegible]ぞとうすらぎ、[illegible]える様になりました。などは、二三日服用を中止すると直に、[illegible]、時として服用せぬ時あるも、[illegible]かもと」[illegible]も増えて、[illegible]を送つてをります（下略）

腸チフス 内服豫防劑
ヘテロゲン
無害無痛で注射に換る豫防劑
注射によらず、從つて發熱疲勞の副作用なく、内服にて約一年間腸チフスを豫防し得る妙藥劑。甘味無臭服用容易の錠劑。しかも病原菌類ならざる故絶對無害安全なり。
定價 一人分 三十錢
全國藥店に販賣
同仁製藥株式會社

謹賀新年

江景市町 小島商店 電話二二番

江景大和町 朝鮮運送株式會社 江景代行營業所

論山麴子株式會社

扶餘郡恩山 普仁醫院 李範緯

小川正敏

扶餘酒造組合 組合長 金瀅圭 理事 西野寬容

扶餘郡林川 片瀬繁

扶餘郡扶餘 本田勇盛

扶餘郡扶餘 土井醫院

湖南線論山 鶴の屋旅館 電話一九番

江景市町 惠本精米所

江景西町 合資會社 高島屋

吉田幸五郎

堀田富三郎

佐々木幸喜

江景中町 中央醫院 金碩坤

原田茂雄

湖南線江景西町 江景印刷所

湖南線江景大正町 江景 丸大工業所

江景中町 代表者 櫻井十次郎

江景大正町 木村精米所

江景南町 不二全北農場江景分場 竹尾彌

湖南線江景中町 邑會議員 谷口豐太郎

湖南線江景西町 邑會議員 廣瀬健次郎

湖南線江景西町 合名會社 伊賀商店

湖南線江景西町 錦水食堂

論山學校組合 管理者 藤本忠次

論山郡守 藤井信一

江景北町 國武農場

江景本町 高橋茂兵衛

江景本町 邑會議員 石本盛治

江景本町 合資會社 野口精米所 電話一八九番

湖南線江景西町 鶴田洋服店

江景市町 岩正商店 電話一五八番

扶餘郡廳

扶餘郡恩山 繁榮會

江景郵便局

江景西町 湖南病院 電話五〇番

江景 土曜會

江景本町 道會議員 西島寅吉

信原精米所

河内精米所

江景學校組合 管理者 坂上富藏 外職員一同

論山自動車運輸株式會社 朝鮮運送株式會社代行營業所 代表者 松永榮

湖南線論山 土曜會

論山 江景 工場一同

忠清南道穀物商組合聯合會

朝鮮米穀倉庫株式會社鎭南浦支店 支店長 吉田基

鎭南浦産業組合

南朝鮮電氣株式會社 江景出張所

江景公立商業學校 職員一同

湖南線江景本町 邑會議員 辻川元助

湖南線江景中町 朝鮮産業株式會社

江景西町 錦江運輸株式會社 電話一四四番

湖南線論山 林田久仁男 電話一五番

湖南線論山本町 梶原酒店

諸石信正

湖南線論山 横田一郎

湖南線論山 山田材木店

朝鮮酒造業、度量衡販賣 津村商店 論山旭町

湖南線論山 面協議會員 松永茂

管理者 富永光太郎

扶餘麴子製造合資會社

管理者 江戸勝吉

校長 七宮眞盛

扶餘郡 窺岩里金融組合 鴻山金融組合

繁榮會

論山江景 江景川改修期成會

論山穀物商組合

湖南線論山 扶餘自動車部 佐々木治右衞門

論山農業倉庫

職員一同

官公吏一同

鎭南浦支所長 尾崎治 外職員一同

扶餘郡恩山 戸田精米所 恩是精米所

合資會社 青木組

久我濟生堂 電話一三 五四番

鎭南浦府 鎭南浦信託株式會社

論山本町 邑會議員 姜永植

鎭南浦郵便局 職員一同

鈴木種一 鎭南浦府

朝鮮商工株式會社
社長 中村精七郎

朝鮮銀行鎭南浦支店 支配人 稲井隆一
朝鮮殖産銀行鎭南浦支店 支店長 堀部隆次郎
朝鮮商業銀行鎭南浦支店 支店長 島田昇

西鮮電氣合同株式會社 鎭南浦支店

鎭南浦土木建築協會

平安南道立 鎭南浦醫院 職員一同

貸座敷組合

朝鮮運送株式會社鎭南浦支店 支店長 高橋貢

鎭南浦土木出張所 所長 福井滯

鮮航同盟會 鎭南浦支部

會員組織 鎭南浦米穀取引所

黄龍會

鎭南浦 柳原釀造所 電話一四三番

鎭南浦 藤本釀造所 電話一八番

鎭南浦畜産株式會社

組合長 象山郁次郎

澤田吉平 鎭南浦府

鎭南浦港の新名物 カフエーローマンス 電話八四六番

鎭南浦水産株式會社

野田良二 鎭南浦

大和組 電話一四一番

鎭南浦警察署 職員一同

鎭南浦 御料理 江月 電二二五番 御料理 新よね 電一一三番

鎭南浦無盡株式會社 社長 佐藤長五郎

山口芳三 鎭南浦府

中村仁 鎭南浦府

大浦秋吉 鎭南浦府

日本鑛業株式會社 鎭南浦製錬所

中原史郎 鎭南浦府尹

鎭南浦府廳 職員一同

土曜會 鎭南浦府

鎭南浦商盛會

鎭南浦公立學校 職員一同

滿洲製粉株式會社 鎭南浦分工場 分工場長 鈴木孝太郎

鎭南浦府三和町 丸十穀物協會本部 會長 新井新藏 理事 明賀[illegible] 書記 千原正七 金鍾[illegible]

李鍾燮 鎭南浦府

加藤精米所 鎭南浦府

一九三五・六年を語る（一）

一九三五・六年の難局の本質は何か

矢野恒太氏は語る

佐藤支社長「一九三五年六年が日本にとつて眞の非常時であつて、外交上、國防上危險かつ重大なる時機であるといふことが叫ばれて居ります。そこでどういふ點が非常に危險であるか、果して大であるかといふことを、各方面の權威者である諸先生をお招き致しまして、或は海軍の見地から、また財政經濟的の見地から、外交上の見地から乃至國民思想、社會思想の點から、あらゆる角度から檢討をして忌憚なきお話を願ひ、さうして國民をして嚮ふところを誤らしめないやうに、わが社の新聞紙上を通じて國民に呼びかけていたゞきたいのであります。さういふ目的の爲に今晩御出でを願ひましたところ、歳末御多端の折にも拘らず、お繰合せ御出席下さいましたことは、わが社として非常に光榮とするところでございます。お話の進行上、半澤外交時報社長に座長をお願ひいたしたいと存じます

（半澤座長） それではこれより座談會を開きます。本日は目下國論の中心問題の一つとなつてをります一九三五、六年の國際的難局の問題を中心として、各位の御意見、御信念の御披瀝を願ひたいと存じます。この問題には大體二通りの考へ方があらうと存じます。その第一は前申す通り一九三五、六年は日本の難局で、これを轉機として日本は非常な危險を迎へるものではあるまいか、從つて內外總ての問題はこれを中心として根本的に檢討せられなければならぬといふ說であります。その第二は一九三五、六年は國際上一つの難局には相違ないが、日本がこの年に斃れば滅びるといふ譯でもないから、さう大騷ぎをしなくともよろしい。よしこの際に難局が到來するにしても國家國民が內輪で肚の中で十二分の用意を爲すればよいことで、表面から聲を大にするのは徒らに海外を刺戟するのみで得策でなからうとの論であります。私はこの兩說とも本當だらうと考へます。從つてこの問題のお話を進めて行くには、順次に假りの題目をきめて皆樣の御說を承つた方が便宜と存じますので**先づ第一の課題として所謂一九三五、六年の難局の本盤本質は何であるかといふ事から始めたい**と存じます

それでは矢野さんにお願ひいたします、矢野さんは國防上、外交上については失禮ながら專門家とは申しあげませんが、かういふ國家の問題には特に御關心のある專門家として第一番に御願ひいたします

矢野恒太氏『それでは私の立場から眺めた一九三五、六年――これに就いての考へを少し申上げてみたいと思ひます

三六年までは先づ大丈夫

つひこの頃も私が反軍思想をもつて誤解をして居るといふことが新聞通信に出て居りましたが、その後別に何もありませんが友人から見舞を受けたりしました。私は新聞で何を云つたかハツキリ覺えて居りませんが、一九三五、六年は日本の危機であると思ふ一人である。これを大きな聲で云ふがよいか、どうかは別問題であります。しかし一九三五、六年が過ぎさへすれば後は安泰で、この時期が危いのだといふ事には賛成しない。むしろ三五、六年から危機が始まるものぢやないかと素人考へに考へて居ります

國防の如きは我々の考へは實に幼稚な素人考へでありますが、兎に角、三十六年までは海軍にしても申合ひました割合が定められて居りまして、ロンドン條約が極めて日本にとつて不滿足であつたといたしましても、ワシントン會議ロンドン會議によつて主力艦が六割とか補助艦が七割とかいふやうなもので、從來私共の聞いて居るところによれば、日本から攻めて行く事は出來なくとも、日本に攻めて來る場合には**今日の英米が條約を破つて不當な擴張をさへしなければ、先づ三十六年までは日本を守るにはこの條約で非常な危險を感ずることがないやうに聞いて居つたのであります**

これが全然間違ひであるといふならば議論にはなりませんが、さうすれば三六年まではまづ惜が折れるかも知れぬが、日本が直ぐに非常な危險に陷るとは思へない。若し三六年で借家の期限が切れて借家料借地料の更改をするといふならば、今まで定めてあつた家賃を上げるといふことなら問題になる。直ぐ上げられる十對六とか十對七といふやうなものが全く破棄になつてしまつて、各自勝手に艦でも造るといふことになる

六七八九年とだんだん壓力重加

それから又露西亞の五年計畫が進んで居る。日本が北滿鐵道を脅かしてドンドン露西亞の國境までゆく、さうして北滿鐵道も殆ど二束三文に日本へ手離さなければならぬやうなロシアの狀況であれば、ロシアの方の反抗心も三五、六年に於て强くなるといふ事は認められるのでありますし、支那の現狀と云ひ、國際聯盟の脫退後二ヶ年の切れ目といふそれによつて起る南洋委任統治の返還を來たすといふ點に於て、あらゆる問題が三五六年に起つて來はせぬかと思ふが、本當にいへば壓力を日本に加へやうと思ふならば、**三六年の海軍々備の協定が破裂した後に於て、彼の豊かな造艦量と彼の豊かな資力を以てグンぐ造れば日本で一艘造るうちに二艘造るといふ力がある、七年、八年九年とますます日本に壓力が加はるんぢやないか、**それから又ロシアの軍備にしても三五、六年を過ぐれば、後はずつと殖へるとも考へられず、支那に於ける米國の飛行機の飛來、これは何といひますか、何か支那との間に契約が出來て米國から大きな飛行機を澤山によこすといふことも聞いて居りますが素人眼から見て三五年よりは六年、六年よりは七年と、だんだん危險が感ぜられるが、その危險は三五、六年に始まつて來る。しかもそれは一通り大抵なものではないが、左程大きなものでないといふ風に樂觀してゐる人もありますが、私はこの際に日本は相當な覺悟を要する。從つて出來るだけ國防を充實して、何その充實した國防力をますく擴張し、これを維持するだけの力を養つて行かなければならぬといふ事を、常に主張して居る一人であります

陸海軍に非常な信頼を懸てゐる

然し乍ら日本は非常な壓力を受けるから、これで日本は潰れてしまふんだ、どうしても防ぎやうがないとは私は考へない。今日の日本人の力は、あらゆる方面から見て世界の一流文明國の間に伍して決して二流には落ちないといふ自信がついて來たやうに思ひます。軍備のことについては、所謂國防の點に、日本が今日まで世界の一等國となつて來た最も大きな原因は陸海軍の强大といふこと、これが世界各國に畏敬の念を起さした大なる原因だと思ふのでありますから、これは問題はないとしても、經濟上の事、聰明の點ならば日本を壓迫して居る。經濟上の問題なり、その他あらゆる方面から見て日本人はもう決して世界の二流に落ちる國ではない。先頭に立つてゐる國でありますから、英國米國のやうな今國內に於て非常に惱みの多い國は――支那はいふまでもなく、たとへ二三これ等の國の聯合が起つて日本へ攻めて來たとしても、**この有力な日本がムザムザ潰れるやうな意氣地のない日本ではない、私共はその點に於ては殊に陸海軍に非常な信頼を置いてゐる、**如何なるさういふ國難が來ても戰爭上の事に於ては、恐らく國民さへ努力して國防に非常にケチな事さへいはなければ、さう恐れるには足らんと思ひます

マア自分は極く大摑みにいへば三五、六年の危機も非常な國防の減少などを痛へる說が行はれない、で、國防を今の通り充實して、これを維持して行く事さへ出來れば恐らくはそんなに恐れることはない。世界を一團としてといへばですが、さう一團として來るものではない。たゞ問題になるのは三五六年は忍ばれるとして、若し持久戰になつて七年八年となつて米國が日本へ來て負けて歸つた、それで戰爭が濟んだかといふと、それでは濟まない。さういふ際にユツクリとやつて來るといふことになれば、日本もこれに對してシツカリした考へを持たなければならぬ

それには國民經濟といふもの力を充分蓄つておく事が必要であります

戰爭より恐い反財界思想

國民經濟の力を蓄ふのには勿論農業は勿論、その他の商業――商業あらゆる方面に於て擔手を承つて居る國民が兵站部として充分に大手、擔手に働いて居る我軍に、兵器彈藥も總てのものに不自由をさせないだけに供給を兵站部がしなくてはならない。然るに現時の議論の中には、徐々にして兵站部は打ち壞してもよい、**三五、六年に必要なる軍備さへすれば後はよいぢやないか――三五、六年を凌ぎさへすればよいといふやうな風に聞こへるやうな議論**が或る一部から出て來て居ります。卽ちマア反資本思想とでも申しますか――反財界といふものが非常に强く世の中に行はれて居つて、經濟界に對する反感といふものが非常に强いのであります

然しこの思想は非常に困つたもので、これが私は三五、六年の戰爭上の危險より、もつと場合によつては、考へようによつては、國難ぢやないかと思ひます。經濟界の事は、これは國家の官吏がやるのではなく大體に國民が個々の考へで、今までの自由主義の社會の下によつて、それで租稅を納めて國家の費用を辨じ、自分等も生活して居るんでありますが、この商業組織が若し壞れてうまく行かなくなつて來るといふ事になれば、或はその國土も根底から搖れやしないかと思ふ

無理解な反財界思想は危險至極

近頃よく論ぜられることでありますが、財界の人が自分の財產を全部社會事業に投げ出した、或は國防獻金に投げ出して、自分は墨染めの衣にかくれてお寺へ入るなどといふ事實が現れると、新聞などの議論は非常に激賞して居ります。天下の資本家がみなさうなつたら、國家はどうして立つて行くかといふことを私共は非常に憂ふる次第です

資本家が自己の任務を忘れて、さういふやうな社會事業家みたやうなものになつてしまふといふ事は洵に困つた現象であると自分は考へて居ります。各々國民の分擔する仕事は違ひますが、これを突いて事にたとへていへば、兵站部といふものは資本家が引受けて居る。それが全くなくなつたならば戰爭は出來ないのではないかと思ひます。この點に於て往々無理解な議論が資本家を壓迫してゐるやうであります。この點は私は常に口を極めてその不可なることを論じて居りますが、陸軍の當局者などもその點をお話をし、新聞雜誌にもその事を共鳴される方々も言つてゐるし、一二の學者、社會主義的思想を有つ或る一種の評論家を主張して居られる人たちも反對してゐるのでありますが、その事が往々にして我々資本家の者が軍本來の目的の國防に反對して居るとか、或は軍人の任務そのものに反對して居るやうに誤解されてゐるのは非常に遺憾なのであります。併し、たゞその議論は時によると軍人の一部の人の口からも、さういふ反財界の思想に類似したものが出るのですが、かゝる議論、經濟論をなさることは、軍人の本來の任務ではないのですから、我々が例へば國防に關する議論をしたからと云つて、またそれがなつてゐないといはれても私共本來のものを論ずる譯ではなく――さういふ事を誤解されて、この問題も問題になつたものだと思ひます

財政の根源經濟界を破壞するな

マア今申し上げただけで大體私の御質問に對するお答は致したつもりです。三五、六年に對しては私は危險を認める、決して安閑としてゐる時ではない。國民はこの際、覺悟しなければならぬ。しかしそれにはたゞ**三五、六年さへ越せばよいといふ意見ではなく、大に國民經濟を整理して行きたい、さうして國民の經濟力をウンと養はなければならぬ**

今度の豫算などにつきましても國防をひどく痛めずに濟んだやうでありますけれども、それでも陸海軍の人から云つたら恐らく十分ではない、多少削られたやうに思ひます。私は成るだけ削りたくない、許すなれば陸海軍の人の要求を滿たしたい、かういふ際は國民はたとへ捨てるものを捨てゝも國防充實はしたいが、それと共に國民の後の稼ぎがつくやうにしておかなければならぬ。然るに、どうも國家の政治といふものは何に金が要るかといふと、やはり國防と社會事業に金が要る。國家は金儲けをすることには携はりはしない。さうしてそれは何處から出すかといふと經濟界からやつてゆくのですから、その出して行く源の經濟界を打ち壞しても、これを國防と社會事業に使はうといふのでは國は成立つて行かんのであります

◇座談會出席者 第一生命保險相互會社々長矢野恒太▲元大藏次官衆議院議員大口喜六▲軍令部出仕海軍大佐關根郡平▲參謀本部附陸軍少佐川俣雄人▲法政大學教授小島精一▲陸軍中將四王天延孝▲元內閣書記官長貴族院議員川崎卓吉▲元外務大臣芳澤謙吉▲外交時報社長半澤玉城▲本社京城支社長その他本社記者

財界を萎縮させる政策はいかぬ

國防にこの際力を入れて細民救濟、失業者保險とかいつた事には少し考慮していたゞきたい。或は稅則などについても產業界に活動してゐる產業界の陣容、大產業家といふものを成るべく束縛しないやうに、さういふ者の活動を充分にして產業家をますく飛躍させるやうに――產業家といつては誤解されるかも知れぬけれども――經濟界の飛躍を一方に充分許して、その代り財界に於て餘り役に立たない人間は、少々つらくても餘り寄附をいはずに先づ國家の經濟力を養つて行く。さうして一方に國防費を充分出して行く。かういふ風な考へ――非常に不遜な言葉であるかも知れぬが、これはお笑ひ草ですけれども――私が若し總理大臣或は大藏大臣といふ地位におつたならば、私は今の財政策といふものは非常に是正すべき點があると思ふ

殊に稅則などに於ては常に私共が希へてゐるやうに、國難に當つたならばどんな細民でも一圓位の國防費を負擔する。それをかういふ時に於て社會政策をますく發揮して行つて、その金はどこから出すかといふと、財界に活躍して居る人間の金を搾つて持つて行つて社會政策なり國防政策に使ふといふことであれば、財界は萎縮するより仕方がない。さういふことは政治に於て賢明ぢやないかと思つて居るのであります。マア私のはこの位にして……

（半澤座長） まことに引切適切なお話で、殊に財政經濟の見地から偶感に富んだ御高說を承ることに有難う存じました。只今提案いたしましたのは一九三五、六年の難局の本體如何といふこと、**その次は、この難局を積極的に克服するか、或は消極的に乘り切る方法はどうか** といふ問題を次に提出する筈でありましたが、この問題を二つ合せてお急ぎのやうでありますから大口代議士から政治家として經世家的見地から將來政策をもよろしうございますからお話を願ひます（寫眞座談會出席者晩餐）

待たる、快報
南極からバード探檢隊のラヂオ

極寒と暴風――自然が限り無盡たる氷獄の南極――南極は今盛夏だ、然も氣溫はといへば我々の天地より遙かに低い。時折空を彩る怪しの極光が消えると後に殘るものはまた雪と氷の世界――この南極の別天地を再び探るべき人類の先驅者バード少將は今一歩一歩南へと前進を進めつつある

今が眞夏

彼等の先發隊『熊』號はすでに昨年九月二十五日ボストンを出發しバード少將をのせた補助船『ジエコブ・ラツパート』號も之と前後して出發した、此二船はパナマで行を共にし南太平洋を南下一旦ニュージーランドのデュネデインに從ぶる。其處から遙々月涯す南極へ向ふのであるが彼等の一行が最終の根據地リトル・アメリカへ到着するのは十二月初旬の豫定である。南極は十一月の半ばから夏が始まり翌年の三月迄續く。彼等が一年の中割合自由に活動し得るのは僅か此の四ヶ月間だ。

周到な準備

一九二八年の夏から一九三〇年の春に亘る第一回南極探檢によつて充分の自信と希望を得た彼等は今回の探檢によつて何を企圖してゐるのであらうか。

南極探檢初期の目的は既に幾多の先人達によつて略し遂げられ一九一一年には早くもかの有名なるロワール・アムンゼン氏が極地への第一歩を印してゐるのだ。一九三〇年第一回探檢より歸來後二ヶ年餘バード少將は凡ゆる努力をその準備に傾けた。七萬二千弗の多額に上る科學的諸器具の設備、老巧なる技師、操縱者、醫師、スキーヤーの選拔、さて食物、犬、橇、飛行機の點に至る苦心の周到さを以て此の壯擧に臨む彼等の目的一體何であらう

探檢の目的

彼は云ふ、『我々は南極には必ずや北米合衆國とメキシコを合した程の大陸があるものと確信してゐる。我我の目的は此の陸地の地圖作成、及び米國領土としての占據其他石炭、石油等天然資源の埋藏物調査を爲すにある。我々が氷河時代と呼ぶ時代を南極は今尚經過しつゝあるのだ、故に南極を探檢することによつて我々は地球の歷史を知り得るわけだ、一個人間が好奇心を有する動物である限り知らんと欲し又永劫に知らんと欲するであらう、我々は地球に關する人類の知識に更にその一片を加へんとするものである』

凍結せる南極圈の空氣、水、氷、陸地の科學的試驗、極光の明暗色の變調、動植物の搜査分類等も勿論彼等の目的の中に含まれてゐる

南極から放送

此の探檢は二ヶ年に亘る豫定である。其の間我々はリトル・アメリカから一週一回の短波を利して情報に接し得るのだ、又ハーヴァード大學のタフツ・ラヂオ研究所に於ては極地に在る彼等と通信し得る設備も完成してゐると云ふ。又彼等の探檢する飛行機にも無電裝置があり刻々飛行機リトル、アメリカ、ブエノスアイレスの中繼を經て我我の一擧手一投足が全世界のバード・フアンの耳に傳はるものである。

恐ろしい風

既中は云ふ『我々を最も興味を惹くものは何と云つてもオートジャイロの利用によつて極地に降り立たんとする新規な企てであらう。從來の探檢に於て最も不便と思はれてゐたのは飛行機に飛行船が平坦ならざる極地に於て着陸不可能であるといふ一事であつた。然し今や彼等は此の新機によつてその夢を實現しやうと云ふのだ。諸君は映畫『バード少將の南極探檢』中、機上から糧食嚢を投下する壯的場面を今尚記憶して居られるであらう。然し南極探險隊の一人バルヘンの言の如く『あの氷の谷の上空を飛ぶ際我々の飛行機は恰も風の中に浮ぶコルク同然疾風に翻弄されて我々は今にも谷の底へ落ちて行くのでは無いかと疑つた』といふのは我々の周圍には屢々大きな氷峰が高く聳り立つてゐるのがみれたからである』更に南極の疾風たるや時速五十哩乃至百哩の恐るべき速度に達し何物も及ばない物凄いものなのだ この難行に果してバード氏は良く堪へ得るか否か

磁力の問題

我々は次に彼等の探らんとする科學的問題を二、三掲げやう。

先づそこには磁力の問題がある。此の地球の周圍に間斷なく起りつゝある磁力、我々が馬蹄形の磁石によつて僅かに想像し得るあの磁力の中心が實は極地をさること二百哩の地點にあることは既に明にされた所であるが然しこの磁點としても刻々に幾分の相異を來しつゝあるのだし其の方向及び程度に一定の正確さを以て明確に示されはしない。之が原因の究明こそは航海術、航空術に資すること頗だ大なるものがあるのだ。更に南極附近を通過する電信、電話、無電が何故に磁力の影響を受けるかが解決されれば世界はもつともつと或る意味で短縮されることにならう

氣候のこと

氣候に關しても南極は少くとも南半球全體の氣候を支配してゐるのだから之に關する知識の獲得も文化の發展に現實な資料を提供することにならう。一體氣候の變化は氣流によつて生ずるものであるがその氣流は極地の上空に於て冷却された空氣が地球面に沿つて赤道へ向け移動し赤道に於て熱せられた空氣が上昇して再び極地へ廻る爲めに起るのであつて此の狀態及び原因の闡明は濠洲等に於ける作物の豐凶不順を阻止することゝなり得るのだ

地球扁平說

今一つの問題は地球が全くの球形ではなく兩極地に於て扁平でありその爲め引力が特に兩極に於て强いといふ說、更に南極地方は結局一大々陸ではなくして二大大島から成つて居り其の間に氷原に掩はれた大海が存在するのであるといふ說等も此の『地球の底』に於ける探檢によつて解かるべき課題である。既に科學者は南極には曾て現在の濠洲南米並に南阿大陸を繫ぐ大陸が存在して種々の動植物が自由に移動して居ただに相異無いと說いてゐるがバード少將一行は化石蒐集によつて此の問題に對しても何等かの手掛りを發見するだらう

待たる、便

此の瞬間も一行は無人の荒原に不斷の努力を續けてゐる。やがて四月が來れば南極も凍結期に入り彼等は自然探檢を中止してデュネデインへ引返さねばならぬのであるが現在の豫定では『アイス・パーティ』（氷隊）と稱する一隊が冬期もリトル・アメリカの根據地に居つてあの恐るべき長夜の南極を分擔探察する筈である。時には南極には『南光』の美しい有樣も短波を通じ『文明人』に語られることだらう。

而して恐らく我々の天地に一九三四年の秋が來る頃卽ち南極に一九三四年の夏が訪れる時『我らは正に南極に立てり』と云ふ彼等からの大ニュースが世界を聳動させることだらう。我々は一行の健康を祈つてその電波を待たう。

仁川 硝子商 八木商店
仁川新町 永盛興 電話九四一番
仁川新町 仁川葬儀社
仁川府龍岡町一 仁川物產株式會社 電話長六八五番
仁川府本町二ノ一八 仁川米穀貿易商會議所議員 杉野榮八 電話長一〇二・一八五八
仁川山手町 中元源五郎
仁川府支那町 食料雜貨 槇商店 電話一〇二六番
銘酒醬油釀造元 株式會社 增田屋商店 電話長一〇九・九二四 長二五九
仁川 物產客主組合 電話四八番
仁川宮町 前田呉服店 電話三〇番

仁川港町四ノ一 鹽油類卸 米穀貿易 久米商會 久保田米二 電話一二三・一一七三
仁川本町 安浦商店 電話七八番
仁川府外長堂里 仁川麵子製造組合 電話七五五番
仁川東公園 矢坂 電話長三六番
仁川 鬼頭虎藏
上仁川 宮成淸吉
仁川 うろこ 電話六八番
仁川新町 佐藤內科醫院 電話六六三番
上仁川驛前 中外藥房

仁川本町 支那料理 中華樓 電話四一五番
仁川龍里 仁川信用組合 電話七一六番
仁川宮町 便利舍 電話一二四番
仁川府會議員 佐藤滿賀
仁川 穀物仲介 勤業所 電話三七番
仁川府松坂町二ノ四 砥石製造元 マルイタ石鹸 愛敬社 電話三四・四五八番
仁川花房町 豐田酒造場 電話六四六番
仁川府寺町一五 精肉 勉强屋本店 電話六〇六番
仁川府會議員 大石季吉 電話四〇番
仁川 廣川齒科醫院
仁川府本町四ノ一 うどんそば 萬盛庵 電話八四二番
仁川府本町 文具商 中川勝美堂 電話三四一番
仁川 米雜穀 松浪秀雄
仁川府海岸町一ノ二 船舶漁具商 村谷吉藏 電話五六番
仁川海岸町 穀物雜貨 今井嘉三 電話八〇九番
仁川支那町 森信汽船株式會社 電話長一一二・一六三番
仁川山手町 上田文次郎 電話九五〇番
仁川宮町 雜貨商 星光商會 電話一二一番
仁川本町三六 產婆 芝トモ 電話四一八番
仁川宮町 岩永眼科耳鼻咽喉科醫院
仁川府宮町 西洋料理 東洋軒 電話五一九番
仁川宮町 岩崎政介
仁川本町四ノ一 穀物肥料 福島邦一商店 電話一〇一四番
仁川 青島茶舖
仁川本町 仁川松函組合 電話七一五番

仁川新町 中村嘉本店
仁川宮町 虎屋商事株式會社 電話六一二番
仁川府仲町一ノ五 淺岡旅館 電話長五三番
仁川府會議員 精米業 劉君星 電話四八・二七六番
仁川府本町四 株式會社 松屋呉服店 電話長八一三番
仁川 京仁バス トラツク部
仁川濱町 旭屋旅館 電話一五一番
仁川濱町 仁川旅館 電話四三五番
仁川敷島町一四 隱塚種苗場 電話二七三番
仁川府花町一ノ一八 仁川府會議員 精米業 直野良平 電話長九一三番
仁川府山手町二ノ一九ノ二 能治齒科醫院 電話三五〇番
株式會社 月尾島遊園 專務取締役 仁川商工會議所議員 今井省三
仁川濱町 クケヤ鐵工所 電話六五八番
仁川府會議員 仁川商工會議所議員 醬油酒造 代田繁治 仁川新町二 電話二七七番
仁川仲町 綿布商 協成商會 電話三二六番
仁川本町四丁目 伴康備 電話一四九番
仁川本町四丁目 綿布商 河野商店 電話一八番
仁川山手町 水先案內 島崎彥次郎

伸び行く半島の雄姿

自力更生運動の實擧がる

著しき躍進

最近の産業經濟界

殖産局長 穗積眞六郎

昭和九年の朗かな新春を迎へ、乾坤一新して謹みて二千萬同胞と共に、聖壽の萬歳を謳ひ奉ると共に非常時日本の過去を顧み明日に備へる決心を一層深固にしたいと思ふ、惟ふに昨年は國際關係の波瀾重疊を極めたるに反し、朝鮮の産業及經濟界は頗る順境の好轉に多年の萎微沈滯を破つて市況活潑、珍しき好調裡に終始した

農林業 に在りてはその大宗たる米は千八百萬石といふ增收を見たるを始め棉花、果物その他何れも著しき高値を示し、加ふるに各種の匡救事業は徹底して農村は潤ひ、購買力は增進し、滿洲への引續きの輸出增と高値に林業方面も未曾有の活況を呈し

水産業 は魚價の昂騰鰮の旺盛なる漁獲その他鯖、明太魚、海苔等の豐漁と鮮魚、鰮干魚等の滿洲に於ける需要の增加、高級鰮干魚の對支取引の復活及鰮油粕の對外輸出の增加、魚油の昂騰等に依り漁撈、製造、養殖共に活況を呈し、殊に遠洋漁業の進展に因り朝鮮漁業は一新生面を拓くに至り、鑛業は國際等の關係上金價の相當く昂騰に産金業増加したるを始め石炭、鐵は勿論黒鉛、銀、高嶺土、硅砂等何れも國內需要の增加、輸出の增進又は價格の昂騰に、剩へ內地資本家の投資經營等も簇出して

未曾有 の鑛業全盛時代を出現し、その産額も前數ヶ年に比し殆んど倍加を見るに至つた
又これら農村に於ける購買力の增進、各種産業用品及實用品の需要增加、金融の緩和、金利の低下及物價の昂騰等は工業界を有利に導き紡織、醸造業、鐵工、靴下、皮革、醸造等の增向商品を始めセメント、砂糖、綿布、製材、製粉、車輛等の滿洲及支那向商品及硝子、琺瑯鐵器、陶磁器、織物等の支那、南洋及印度向商品等何れも活況を呈し殊に近年設立を見たる大規模の朝鮮窒素肥料、製粉工業、硬化油等の

諸工場 は愈よ全能力を發揮するに至り、又仁川の紡績工場、永登浦の麥酒工場、水力電氣事業、北鮮に於ける油脂工業及各地の纖維工業等夫々工事を急ぐに至つて、朝鮮の工業も從來の中小規模の鮮內自給を目的とするものより漸次大規模經營と輸出向商品の製造に向はんとする傾向を示すに至つた。更に對外貿易を見るに對滿關係に於ては木材、セメント等の建國事業用品を始め麥粉、砂糖、綿糸布、燒酎、醸造、鮮魚、鹽干魚、果物等の日用品及一般經濟用品の輸出は激增し、前年は十一月迄に於て既に前々年一ヶ年の五割增に達し

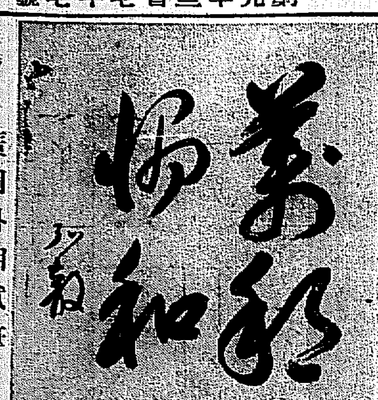
輸出入 總額は前々年の六千九百萬圓を超過すること實に二千二百萬圓に達するの盛況を示し、對支關係に於ても山海關事件、熱河問題等の爲一時杜絶の狀態に陷つたが、五月停戰協定以來漸次排日貨運動は緩和し、一面銀高等も手傳つて貿易は復活し十月迄に於て前々年の輸出高を超過した。斯の如く朝鮮の産業及經濟界は滿鮮、海國を問はず各般に亘り活況を呈し景氣は好轉しつゝ越年したが、この好調は果して本年も持續し或は益々發展すべきであらうか、我等は前年好調の原因を更に檢討し將來を究めたいと思ふ、前年

好調を 催した原因として對支關係の緩和、對滿輸出の增進、農産物の騰勢及各種救濟事業の徹底に依る農村の更生、金融の緩和等種々擧げられてゐるが、就中最も大なる原因は國際替の低落滿洲に於ける經濟工作の進捗及金利の低下に在ると見るべきであらう、而して滿洲に於ける經濟工作は本年に入り一層充實し之に伴ひ地理的に最も優位を占むる我が半島産業は相當潤ふものあるべきも、前年の如き躍進は期待し難きものがあり、金利の低下も大體に於て現在一通りは利用し盡ることとて、之を利用すべき生産、交易等の將來の

發展性 如何が問題で低金利のみを以て新に事業の勃興發展の材料とは致し難くその他の材料は漸次幾分の好影響を期すべきも急激なる變化材料とは見做し難い、結局本年の産業經濟界を左右し得る最も重大なるものは國際經濟關係の影響殊に國際替の騰落如何に歸するものと謂ふべきであらう、而して國際替は我が國の金輸出禁止以來、米國財界の不況、不安に拍車をかけられ、前年初頭には對米二十弗といふ記錄的の慘落を示し、これが爲我が輸出工業及貿易は躍進に躍進を告げ急激な發展を遂げ、獨り東洋のみならず世界各國の市場に向つて雄飛し、商圈の擴張、確保を見るに至つたが、その後

爲替は 一路昇騰を續け今日に於ては既に三十弗を超え、何時弱勢を持續せるのみならず、米國に於てはインフレーション政策、平價切下問題、産業復興法の効果問題等國內に於て既に反對意見も擡頭しつゝありて豫測すべからざるものもあり、財界の問題たる爲替の見透は今遽に獨斷を許さず、又世界各國共に我國とその植民地との間に經濟ブロックの確立に努め、自國産業の保護政策をとり、殊に英國、濠洲、印度、西亞弗利加、米國、南亞聯邦、土耳古、希臘等に於ける禁止的高關稅の設定あり、或は蘇聯の東洋進出及米蘇の國交恢復等もあつて、これ等の影響、異變による財界前途の

見透は 相當困難な現狀で、未だ眞に安堵すべき時期にあらず寧ろ細心の警戒とその對策の考究を要すべきに非ずやと考察せらる
朝鮮の産業經濟界は最近著しく躍進の機に進み半島經濟に對する一般の認識の深まりつゝある今日、朝鮮經濟に關係する者は細心戮力叙上の逆睹し難き經濟界の變局に處して充分の研究と弛まざる覺悟を持しつゝ、半島經濟の一段の進展に努力し昭和九年に於ても昨年以上の好況を持續せしむることを新年劈頭に當り切望して已まぬ次第である

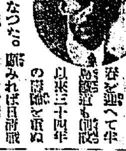


廣田外相試筆

半島開發の先驅

鐵道網の近狀

鐵道局長 吉田浩



昭和九年の新春を迎へて半島鐵道も創設以來三十四年の星霜を重ねることゝなつた。顧みれば日清戰役間もなき頃、京仁間の敷設に端を發してより逐年建設の歩を進め京釜、京義、湖南、京元、咸鏡の五大幹線を完成し、殊近圖們線を竣功せしめて朝鮮の開發に大なる貢獻をなし、産業の開發に、國防の充實に、その重要なる使命の遂行に邁進しつゝ茲に光輝ある新年を迎ふに至つたことは、洵に同慶に堪へぬ次第である
今年頭に際して國有鐵道其の他の近況に付て述べると

國有鐵道 の現在建設工事中の線路は昭和二年度以降の鐵道十二年計畫である滿浦線外四線七年度以降施行されつゝある北鮮線竝に東海線とであつて、これ等各線の延長は三百六十七粁餘である。このうち惠山、滿浦の兩線は北鮮鐵城一帶に賦存する林産、礦産等の天富を開拓すると共に國防及拓殖の上に重大なる意義を有し、平元線はその沿線に包藏する石炭木材其の他の資源の開發に資すると共に、滿浦線の完成と相俟ち南北兩鮮中央地と內地方面との交通を便利ならしめ、我が經濟の結合を鞏固ならしむるに與つて力あるべく、東海、慶全の兩線は南鮮地方と東海岸地方沿線の産業を開發し地方民度の向上を圖らうとするもので、北鮮開拓線は以北奧地の森林を拓き之を直ちに日本海岸に輸出し、併せて礦産の開發及拓殖等に資せんとするもので何れも緊急施設を要するものである

改良工事 は複線鐵道施行中であつた京釜西部線の複線改良が八年八月に至り東部複線と同時にその工事を了へ、その他既設各線に於ける輸送力の增加及旅客速度の向上計畫に伴ふ線路改良、停車場施設、軌條交換、保安設備等の施設改良も實施し建設計畫と併び進んで時運の進展に伴はしむることを期して居る

列車運轉 に關しては國際交通に便ずる爲、釜山棧橋と奉天間に直通列車を運轉し、奉天に於て滿洲各地、支那及シベリア方面との接續を圖り、八年四月より一般に主要列車のスピードアップを實施した結果、從來に比し下關京城間に於て最長二時間四十分を、下關新京間に於て約六十一時間を短縮した、又鮮內都市近郊の交通利便を增大するため各快速輕快な瓦斯電動車を運轉する外、京仁間に普通用特殊輕動車を運轉し、八年六月からは更に經濟的利用のため瓦斯電車を京元線において運轉してゐるが、その成績は頗る良好である

營業狀態 は七年下半期から一般財界の恢復と滿洲國建設等よりして引續き旅客貨物の輸送好況を示し、

八年度においては豫定益金一千五百萬圓に達すべき見込で、この見込額は鐵道投資公債利子額には猶若干不足するが、大體において之を充し得ることゝなり、鐵道財政の均衡を得るに近づいたことは欣ぶべきところである

私設鐵道 は從來補助金交附其他の助成に依り、現在迄に一千五百粁の線路が敷設せられ、この延長は國私兩線を合した朝鮮に於ける鐵道總延長に對し約三割五分に上り、此の中既に國に買收せられたるものを除き現在營業粁一千百七十二粁餘に達し、その經營は概して地方線なること及び孰れも敷設後年數を經てゐないため良好でなく、殆んど全部が損失を生せざる如きものが多かつたが、八年に入つてから各線共輸送増加し增收を示し相當に光明を見るに至つた然し乍ら元來朝鮮の如き開拓時代に在る鐵道は營利事業としては不適當であるので、專ら國營に依るを可とするが、財政上の關係に依り國營のみを以てしては充分普及の目的を達し得ないので、國營代行の趣旨を以て從來私設鐵道を助成して來つたのであるが(一)私鐵の助成設即ち補助設は朝鮮の私鐵が其資金の殆んど全部を內地より誘致して居る關係上自然補給率高く延いて補助額の增嵩を來し國鐵資金たる公債利子に比し高率である爲財政上の不利尠くない、從つて可成速に之を買收するとは國費の節約となり財政上の利益も亦大であること(二)私設鐵道の運賃は國鐵運賃の倍額に上り而も私鐵中には路線的長大なるもの少くない之を國有に買收する時は運賃の低下に依る地方開發上の效果亦大なるものがある(三)以上の外國私兩鐵道の統一經營に依る利益も甚大なるものがある等、各種の理由に基いて從來交附の償還行の可能なる限り買收を行つて來たが、將來に於てもこの方針に依らんとするものであるなほ現在線路にして本年中に補助期限の到來するものがあるがこれらは孰れも補助を離れて自立し難いものであるので、これに對し補助年限の延長を爲すことは已むを得ないことであるからその年限延長しせて時勢に順應せしむることとし補助法の改正を行ふを適當と認めるので、補助法の一大改正を行ふ必要から今期議會に提出すべく目下準備中である

陸上運輸 交通の統制に付ては七年度制令に依り鐵道局制改正され新に私設鐵道軌道の監督事務の外に『其の他の陸運の監督』を加へられ、且つ八年制令に依り朝鮮自動車交通事業令の發布を見、目下之が實施に必要なる諸規程案の起草中である

大陸交通 連絡に付ては附言すれば、八年八月北鮮國境に沿ふ圖們線が全通し、九月一日に至り久しい間の懸案であつた京圖線の建設が完成し、こゝに北鮮と東北滿洲とを完全に結合したるのみならず、北鮮の新港湾を介し日本海を經て內地との間に新なる交通路を展開せしむるに至つた、從つて從來海口の關係上大連、營口等に集中された滿洲物資の一部相當大量の貨物が東北滿洲より北鮮を通過して裏日本及び裏日本の南方面に搬出せらるゝことゝなるのである、この新なる交通形態に應ふ爲十月一日以降清津以北の北鮮線及圖們線の經營を滿洲國鐵道に委託し滿鐵は今後北鮮線其の他を通じて輸送さるべき大量物資に應ふべく、羅津港の築港と之に伴ふ雄基―羅津間十五粁の鐵道敷設に着手したのである、而して對大陸の連絡は、圖們、鴨綠の兩江を境として千三百粁の長きに亘る沿岸に於て現在に於ける鴨綠江の一橋、圖們江の二橋を以てしては猶充分ならず、將來更に數橋を架する必要があり、滿浦線、惠山線の竣成に伴つて近き將來の實現を期すべき案件である
之を要するに、我國現下の狀勢よりして朝鮮鐵道の普及促進と改良整備は急にすべきでなく、交通利便の增進によつて天與の富源を拓き、半島文化の向上を促し進んで母國の人口、食糧、燃料問題等の解決に寄與し、現時の輸入超過の解消に努め、國防の完實に努むる等その機能の多方面にして緊要なる事に留意して諸般の施設經營を全うし、經濟國防の完實に努むる等その線路の改善と輸送力の增進によつて國富の增加を圖り、最善の努力を盡しつゝある次第である

京畿農村に漲る

勤勞好愛の機運

都市の更生運動も漸く盛ん

京畿道知事 松本誠

本道々治の現狀は時代の進展に伴ひ漸く官民親和し、諸般の施設漸次整頓を見健實なる道勢の伸展を見つゝあるが、殊に農村振興運動の擡頭を中心として從來の教育施設に據る努力を強し、普通學校卒業生の指導並に農村就職に於ける卒業生指導終了生の農事實習を始めとして各郡に於て一夜講習會の開催、內地模範農村見學團の派遣等の手段施設に努力を傾注し、以て眞面目に農民生活を營みつゝ一般農家を感化し農村精神を以て一般農家を感化し農村經濟更生の實を擧げしめる中心人物の養成に努め來つたが、今や之等の青年を中心として到る所農村の青年が奮起して、勤勞好愛の生活に邁進せんとする機運を招來しつゝあるは欣ぶべき現象である
更に本年三月本道揚州郡に開所すべき農民訓練所は叙上の趣旨を一層強化徹底するための劃期的施設であつて、その目的とする所は健全なる帝國臣民を養成し、半島農村青年の重責を全うせしむべく、毎年四十名の現に農業に從事しつゝある優秀なる青年を道內農村より選拔收容し、一ヶ年間質實剛健なる農業勤勞生活を營ましめ、醇眞剛健の氣風と勤勞好愛の性格を徹底養成せしむるにあり、從來の如き土に離れて勞働を忌み知識偏重に傾かんとする教育方法を打破して、眞に農村生活に即したる訓練を行はんとするものである
かくて此の訓練所より將來選出すべき青年は勤勞の習慣と皇國精神の信念とを抱懷し、併せて農業經營に關する技能を習得して本道農村各地に於て根強き中堅農家として農業に範を示すに至るものと、多大の期待を懸けてゐる次第である
又本道農村には到る處篤農たる勤勞實行者ありて、直接間接農村指導に當れる事實多數に發見されつゝあり、加ふるに久しきに亘る慣習上概ね內房に蟄居したる農村女性の間にも近來翕然として屋外勞作の美風起り、索莫たる田圃に溌剌たる生氣を與へつゝあるのは衷心欣快に堪へない所であつて、此の大勢に乘じて指導宜しきを得れば、本道農村も必ずや近き將來において平和の樂土として農民の謳歌する所となるものと確信するのである
翻つて本道都市に於ける自力更生運動の狀況は遺憾ながら、尙不振の狀態にあるので、過般京城府內社會事業施設に各學校當局者の參與を求め都市に於ける生活改善について懇談を遂げ、之が實行促進方を諮つたのであるが、既に京城府に於ては府內教化團體聯合會を組織して着々實行運動を起し、府內各町洞を單位として精神作興の實を擧ぐべく教化常會を結成し、今や京城府內各般に亘り教化網を完成するに至り又仁川、開城等の都市に於ても之に倣ひ其の施設を進めることゝなつたので、今後は都市農村相呼應して社會の淨化竝に民衆福祉の增進に一段の活躍が期待される次第である

滿洲國の情勢と

在滿同胞問題

田中本府外事課長

滿洲國は建國以來三度目の新春を迎へるわけであるが、この新興國が今日まで極めて健かに成長し來たつた事は我國のため又東洋平和のため洵に慶祝に堪へぬ次第である、然しながら從來滿洲國は何しろ建國匆々で、國を擧げて立國の基礎工事とこれを妨害する各種障碍物の除去、いはゞ治安の維持に多忙であつたが、これからは愈よ內政整備の時代に入らうとしてゐる、即ち同國は諸般行政の各般に亙つて將に整調の時期に際會してゐる
在滿同胞の問題についても全く滿洲國の創設の如き劃期的に際して今日まで推移して來た、即ち第一期の時代に於ては治安の崩壞によつて、同胞は全く奧地に留まる事が出來ず、鐵道沿線その他安全な地帶に避難して來たものを、取敢ず保護救濟した、第二期に於てはこの人々の生活を恒久的に安定せしむるために、救濟資金融通の途を講じ、原地に歸還せしめ、その歸還の出來ぬものに對しては安全農村を創設して之等の人々を收容し、模範的な自作農の創定を試みた、その場所は即ち營口附近の田庄臺及び北滿鐵東寧縣の吉林の二地方であり、田庄臺は目下九年度の豫算…

が、既に八年度はみごとな植付をなし、朝鮮農民により豐富な米の收穫を見た次第である、かくしてとにかく安全農村は今まで順調な經過を辿つてゐるといへる
さてこれからが本問題も愈よ第三期に入るわけで、換言すれば、これまでは要するに救濟的應急措置にすぎないので、在滿同胞に對する根本的措置には觸れてゐない、今後こそ在滿百萬同胞を安定せしむるために、また鮮內からの新移民のために、徹底的な對策を考究樹立し、且直ちに實行すべき時期であると惟ふ、將來の問題といへば內容は極めて多岐に分れるが、所謂は前述の如く在滿同胞の生活安定施設、新規渡滿者への施設の二者に歸着し、それに就いては如何なる政策が最も效果的實際的であるかといふ事が問題の核心になる、從來屢々論議された朝鮮農民の金融機關も、新移民機關に對する問題も、乃至は開拓會社等の問題も皆これに歸着する
總じてこれ等の對策に就いては、何れ近き將來何等かの形式に於て具現せらるゝ事と思ふが、只今は內容を具體的に申上げかねるものがある
我々としては要するに滿洲國の形勢、又は鮮內統治の大局から觀て、ひたすら善隣を期せんとするものあるのみである、最後にたゞ一言附加したいのは、在滿同胞の問題はたゞに滿洲に現住する百萬同胞の問題のみではなく、朝鮮統治そのものであるとの觀點を、滿洲問題を研究する國の人々に持つて戴きたい事で、その點は吳々も高調したいものである

―松岡映丘畫伯―

俠劍風來坊 [90]

國枝史郎作　佐々木格繪

高原狂亂 (二)

『馬を放したな、馬鹿な奴だ』
から云つたのは猪之松で、獅顔の膝に立つてゐた。
『商賣物を逃がすなどとは、勿利に盡つきた連中で』
獅顔の戶をあけて騷動を見てゐた、井上嘉門が嘲笑ふやうに云つた。
『だから一生馬方商賣、それ以上には成れませんので。ハツハツハツ』
と附け加へた。
其處へ陣十郎が駈けて來た。
眼が眩んでゐて見境ひが無かつた。
敵人を切つた血刀を提げ、亂れた髮、亂れた衣裳、返り血を浴びたみ出しの眼―さういふ姿で駈けて來た。」
『陣十郎だ！陣十郎だ！』
円四郎吉が眼ざとく見付け、ギョッとしたやうに聲をあげた。
『おゝ然うだ、陣十郎だ！』
から猪之松も叫んだが、いつぞやの晩自分の屋敷で、盜つてやつた恩を忘れ、乾兒を切つたばかりで無く、井上嘉門に擲げた女―澄江とか云つた武家の娘を、奪ひ去つたことを思ひ出した。
『畜生、恩知らず、たゝんで了へ！』
『やれ！』
『ダ、ダ、ダ、ダ―！』
乾兒達だ！
一齊にひつこ抜いて切つてかゝつた。
『……』
無言で構へなくり！
陣十郎であつた
嘔ながら立つた！
ブーーッと法螺貝！
匂ひで知れる！生臭さ
『切つたぞ敵を！』
『用心しろ！』

開いて散じたが又合した。
見境ひの無い陣十郎、躍り上がつてズーンと袈向！
『ギヤーーツ』
作れて、ノタウチ廻はる、また乾兒が一人やられた。
『おのれお婆アーーッ！逃がして見すてゝ一散宿の方へ！
ならうか！』
『追へ！』と猪之松は地團太を踏んだ『仕止めろ、敵を、付止めろ！』
一同ドーーッと追つかけた。
この頃宿は狂亂してゐた。
馬！ 馬！ 馬！
博勞！ 博勞！ 博勞！
戶を蹴破り、路路に驅け込み、騷ぎに驚いて戶を開けた隙から、駈け入る馬！追へやらうとして、無

二無三に踏み入る博勞！
ボーーッと一軒から火の手が揚がつた。
『火事だ！』
とうく火を出したのだ！
折柄吹きつのつた夜風に煽られ飛火したらしい、澁う一軒から、カーーッと火の手が空へあがつた。
『起きろ！』
『火事だ！』
『掠奪だ！』
家々はおほよそ雨戶を開け、人は爭つて外へ出た。
岩屋では主水が眼を醒まし、離屋では澄江が起き上つた。
番頭が廊下を怒鳴り廻つてゐる。
『お客樣方大變でございます。燒討がはじまりましてございます！どうどうぞお仕度下さりませ！ご用心なすつて下さりませ！』
×　×
本陣雨屋の奧の座敷では、多四郎源利が、眼をさまして起き上がつた。

開城燒酎共同販賣組合

宮崎金藏

開豐郡廳

開城 松都殖産株式會社

土城 柳謙吾

中西面事務所

土城 草野萬平

賀正

白川溫泉旅館 畑間榮二

京釜線延安溫泉 橋本旅館

開城 運送合資會社

開城 渡邊齒科醫院

開城大和町八 開城製麵所 禹相大

開城 島田昇二

開城 李祖榮

開城南大門通 林成圭洋服店 電話二六七番

商城銀行開城支店 韓光鎬

土城 西村清治

開城府尹

開城人蔘同業組合 電話長四二九番 振替京城一九六六番

開城公立初等學校長一同

開城 富榮商會 電話三六四番

開城 村上平一

開城 朴尙玉

開城 十日會

開城 金志河

開城 八木右一

開城 朴鳳鎭

開城府西本町 開和館 電話三三番

開城府北本町 合資會社 高麗蔘業社 電話四八番

開城府西本町 土木建築請負業 久我幸兵衛 電話三三七番

開城 石原博太

開城 近江組出張所 芦原賢一 電話四一九番

開城府大和町 土木建築請負業 都築尙文 電話一二二番

開城料理屋組合

開城券番

京畿道立開城醫院

朝鮮殖産銀行開城支店 尾崎俊甫

開城 李英煥

開城 金正浩

開城消防組

開城 神田實夫

開城電氣株式會社

開城郵便局職員一同

開城自動車營業所

開城府西本町 土木建築請負業 渡邊位政 電話一三三番

開城少年刑務所

開城公立普通學校

開城蔘業組合

朝鮮總督府專賣局開城出張所 蔘媄會

甲戌新年紙上名刺交換會

吉岡定次郎

有賀光豊

廣安重都

[illegible]三郎

平田一平

[illegible]

賀田直治
京城商工會議所

[illegible]

市川泰
ダイハツディーゼル機關製造株式會社京城出張所

[illegible]

友井福三

本田弘一
三和銀行京城支店

[illegible]
朝鮮貯蓄銀行

朴榮喆
朝鮮商業銀行

[illegible]
杉山商店京城支店

平井熊三郎

群山商工會議所
會頭　花岡鶴松

杉田朝郎
京城府蓬萊町一　[illegible]株式會社取締役

熊本利平

[illegible]

齋藤久太郎

牛尾正一

野田薫吉

[illegible]

吉川太一郎

[illegible]

豊島次郎
東京火災保險株式會社

[illegible]
群山商工會議所

櫻井秀專

佐藤德重

群山學校組合會議長
[illegible]

山本好造

[illegible]

牛島省三

[illegible]

林茂樹

李鍾殷
全州

澤慶太郎

孫永穆
釜山

上瀧基

林繁藏

小池泉
釜山

池田清

松下芳三郎
釜山

穗積眞六郎

[illegible]之助

西岡芳次郎

吉田英三郎

西本計三

[illegible]

[illegible]

笠井健太郎

[illegible]
釜山

富野繁市

[illegible]

伊藤重次郎

[illegible]

渡邊儀一

[illegible]

西龜三圭

中野米國理学士　責任指導

儲かる新職業

二十三円の資本から誰にも出来る

月二百圓の利益確信

（前略）私は二十余年間官界に勤めて居りましたが、昨年退官と同時に先生の門下に入り、粉末石鹸製造の教授を受け、現在では月三百箱は製造出来る様になりました。品質優秀は萬人に認められ好評を博して居ります。今後は月二百圓位迄の利益をあげ得らるゝ確信が出来て喜んで居ります（大阪 前司）

辻本元巡査部長の成績

中野先生に暫らく御無沙汰致しました私事本年六月から石鹸製造を開始しましたが製造品の品質良好で以来注文を博し到る所好評であります。決して嘘ではありません。注文を受けたものが製造すれば益々注文が殺到する此の調子で行けば前途有望です。一寸近況御報告申上げます

小資本新職業としての粉末石鹸の製造

粉末石鹸は無限の需要と廣大なる販路を有し、将来益々有望であります。誰にも出来る新職業で月二三百圓の利益をあげ得らるゝ理想的新職業であります。研究所では通信教授と実地教授の二法により三日間で速成教授をなし永久指導を致します

好期は今!!　詳細説明書進呈

實驗原料無料進呈の大特典あり

中央化學工業研究所　名古屋市東區西裏町一二三

元賣發　印彡ヘ　アロバ・百貨賣買

カタログ呈上

名古屋市中區新榮町四丁目　永田商店營業部

電話西局四六二六番　振替名古屋一七二七九番　私書函西郵一五番

綿布加工品　コール天服　青年團服　作業服　登山服　事務服　通学服　各種ズボン　小兒服　防水雨具

是非一度御試売を乞ふ

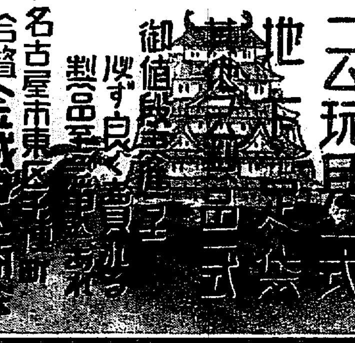
名古屋市東區宮町　合名會社　荒木商店

電話本局二三〇四番　七八八六番　振替名古屋一五〇六番

各種ゴム靴　ゴム防水布　タイヤー各種　ゴム玩具各種　地下足袋　製品各種　御値段を必ず御喜び頂きます

名古屋市東區　合資會社　金城ゴム商會

電話　振替名古屋



メリヤス専門卸問屋

名古屋市中區南大津町　合名會社　田組與商店

電話東局一〇七二番　振替名古屋七七番

専門問屋

手袋　靴下

大量製産　商店に限り　カタログ呈上

製造直売　専門問屋

名古屋市東區蒲焼町四丁目　佐藤鉦商店

電話東三八二八番　振替名古屋一五〇〇九番

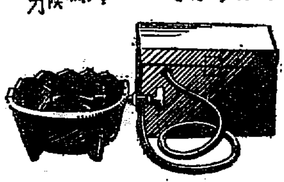
恭賀新年

改良と研究に專心し販路の拡張に努力し其の一歩を満洲に印するは各位の御後援と深く感謝仕候

新しき製品は　ケージー・パレス　スネール料理機等は數種有之候　其尚研究と努力に依てガスと同じく

マッチ一本　すぐ火となり　料金瓦斯の1/3　火力瓦斯の三倍（カタログ呈上）

とまで機械の働きを充分に現す事が出来ます　尚本年も相変らず御引立の程深く御願仕候



ケージー瓦斯機　定價金二十三円也

昭和九年一月元旦

名古屋市中區南武平町三丁目　製造發賣元　丸八製作所

電話中局三三四六番　振替名古屋九四十號　私書函名古屋

冬メリヤス雑貨　残品見切卸値段表

4391型学生靴

御申込次第呈上

名古屋市中區菊里町　伊藤彦商店

電話中局四三三四番

百貨貿易商

（商報進呈）

SB

名古屋市西區広井町　合資會社　サービス商會

電話西局一四一七番　工場電話　電話東局九九二番　振替名古屋一五一六一番

◎懸賞投票規定

一、投票は本紙面に現れたる二十四店の内今後取引を希望する商店名三店以上を官製ハガキへ明記の上左記の住所宛御送り下さい

送り先　名古屋市中區新榮町九ノ一〇　鮮滿通信社懸賞係

一、投票は一般商店に限ります　店名入りのスタンプを捺して下さい

一、投票期間は一月十五日まで本社に着く様御送り下さい（締切十五日迄）

一、投票は一月十七日右二十四店の店主及び各新聞記者立會のもとに抽籤し左記の商品を進呈すると同時に右取引を希望したる商店の商報と商品見本を進呈致します

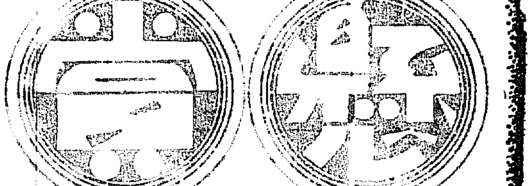
一等一名　自轉車一臺

二等二名　腕巻時計各一個

三等二十名　萬年筆二十本

其他一千名（投票着順）に限り高級モス風呂敷各一枚宛進呈

◎發表は一月三十日各新聞紙上に發表すると同時に賞品を進呈致します



賀正

諸官廳御推奨

シヤチハタ印　萬年インキ台

始めからインキをヌラズ数年使へる、經濟便利、御買上の節はシヤチハタ印と御指定下さい

○色、赤、黒、紫、朱、緑
○容器、大、中、小三種
○定價參拾五錢より九拾五錢迄

發賣元　舟橋商會

謹賀新年

國家興隆の養鶏事業

農村の振興は肥料の自給自足にて！

肥料の自給自足は養鶏が最適？

營業種目

初生雛　中雛　種雛

生産育成並養鶏

用品器具一切販賣

養鶏案内書無代進呈

名古屋市中区広路町　服部養鶏園

電話東四三七七番

（商報進呈）

Superior

製造發賣元

メリヤス

現金問屋

名古屋市中区八百屋町一

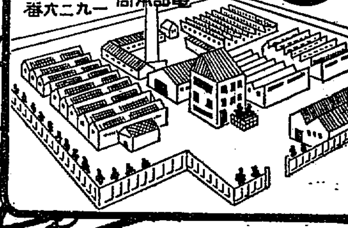
前田貞治商店

電話本局二三三二番　振替名古屋八三二番

本邦唯一の毛織物本場

名古屋市下長者町　合名會社　濱田商店

電話本局一七七六番　一九二六番



機械商

合名會社　ワシノ商店

名古屋市中区裏門前町三丁目

石泉老人題

アサヒタビ工業所の年始大奉仕特賣

一萬足限り　元日より十五日まで

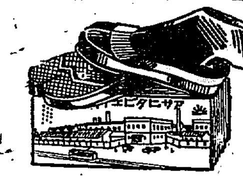
本紙切取注文者に限り百足入木箱一梱

指付　先丸　型同値

文数御指定ノ事

漏れず

絹製宣傳大旗進呈



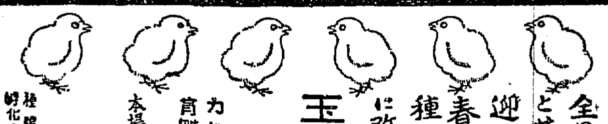
時價六十五円ノ處　奉仕特價百足金四拾九圓

運賃ハ買主負担ノコト

名古屋市東区千種町今池　アサヒタビ工業所

電話東四八二九番

謹賀新年



全日本三百萬鶏友各位と共に鶏界飛躍の春を迎へました事を祝福致します

春雛の御用命は全郡種鶏二百卵級を目標に改良されたる我が玉置人工孵化場へ

御指定願ひます

カタログ　育雛參考書　無代贈呈

本場　名古屋市中区広路町一二八　玉置人工孵化場

電話東六〇九二番　振替名古屋六二一五番

種鶏場　孵化分場　愛知縣東春日井郡味岡村

電話小牧一四六番　振替名古屋一七五一九番

蓄音器　樂器　卸問屋

型録進呈

菊谷商店

名古屋市西区伏見町三

電話本局三四五四番

専売特許　ウエダ式精米機

絶對無砂搗

農林省比較審査甲位入選

推奨機

全国米穀改良組合

△第三回帝國發明表彰有功賞受領
△第十三回發明協會地方表彰優等賞受領

本機によらずして水晶米胚芽米無砂米は望み得ざるなり

（型録精白見本進呈）

名古屋市西区泥江町三丁目　服部商店

電話西一七七六番

SIREN　シレイサ

TRADE MARK SUPERIOR

各種ズボン　オーバー服　作業服

製造問屋

名古屋市中区　安藤兵助商店

電話中局三四三三番　一二四六番

カタログ進呈

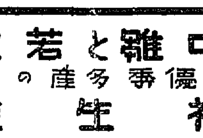
中雛と若雛

優秀多産の

初生雛

景氣挽回の尖端を行く

優秀多産な初生雛

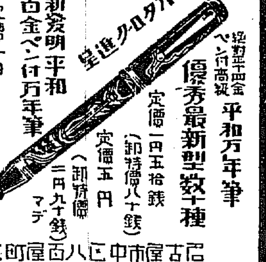


名古屋市南区道徳町

合名會社　鈴木人工孵化場

電話南局三九八八番　振替名古屋九〇一一番

カタログ進呈



ペン付高級十四金　平和万年筆

優秀最新型数種

定價一円五拾銭（卸特價八十銭）

定價五円（卸特價二円九十銭）マデ

新発明平和白金ペン付万年筆

定價一円（卸特價五十銭）

（十四金同様ノ耐酸性ヲ有ス）

名古屋市中区八百屋町三

上田万年筆製作所

電話本局三八二九番　振替名古屋五一一番

創立満三週年記念

懸賞　愛讀者大募集

養鶏雑誌　鶏友

一部二十五銭送料二銭　半年一円四十五銭　一ケ年二円八十銭（送共）

新聞名記入御申越次第鶏友養鶏案内進呈

名古屋市中区広見町　鶏友社

電話本局四五三九番　振替名古屋一二九四八番

一等	監別雛百羽
二等	監別雛百羽
三等	孵卵器一台
其他	賞品多数進呈

生活の虹（2）

菊池寛作　志村立美畫

エレヴエーターガール（二）

降りるときは、五階から女事務員が一人乘つただけで、外に誰も乘らなかつた。一階まで降りると

『交代です』

と、ネームプレートを手にした愛くるしい丸顔の少女が、さゝやいて綾子と代つた。

地下室にある控室へ歸つて來ると、同僚の水野さんが、綾子を迎へながら

『綾子さん。四階へ新しく出來たフイルムの輸入商社の社長さん、誰樣さまなんですつて！一寸、千惠藏に似てゐるのよ。貴女、まだ乘せない？』

と訊いた。

あゝ、今乘せた人が、その人なんだなと直ぐ氣はついたものゝ、興味がなさゝうに、

『さう。のせたかも知れないわ』

と、答へた。

『三浦さんは、一度乘せたい乘せたいと云つて、さわいでゐるんですけれども、どうしても、うまく行かないんですつて』

それには、綾子はもう答へなかつた。

仲間の娘達が、エレヴエーターに乘るアパートの若い社員達の噂をするときなど、綾子はいつも、超然としてゐる事に、つとめてゐた。

實際彼女には、さうした浮ついた氣持などは、少しもなかつた。

彼女は、金のある青年紳士と結婚して、安樂にならうとか華手な暮しをしようとか、他力を頼む心は少しもなかつた。

二年前にも、松竹蒲田を脱退した俳優達が、大和映畫株式會社と云ふのを組織して、このビルディングに、事務所を置いたことがある。

綾子の美貌は、すぐ彼等の眼についた。男優ばかりで女優難に苦しんでゐた幹部達は、いろ／＼手段を盡して、彼女を勸誘した。月給百五十圓、入社準備料は即金で別に三百圓、わづか月給九十圓の彼女には、それは大きい誘惑であつた。

『君が、スクリーンに出れば、及川道子、市川春代、桂珠子なんかを蹴とばすことは、何でもない。あの連中より君の方がずーつと美しいし、君にはあの連中にない氣品があるよ。それに、君の顏は理想的の素顏だし、君は理想的の映畫顏だ』

蒲田でも、男優としてナムバーワンであつたSと云ふ俳優が、さう云つて彼女を口說いた。しかし彼女はそれにも敢然として首を横に振つた。

彼女は、自分の容姿を資本にして、生活したくなかつた。それは結局他力による生活である。

だから、自分の容姿によつて、男性から愛されたくはなかつた。

それは、藝者をしてゐた母の晩年が、いかにみじめであつたかを彼女はしみ／＼、自分の眼で見たからである。

探偵小說　窓から覗く顏【上】

森下雨村

一

野呂伸三君は、十年精勤賞をもらつた模範吏員である。

中學を出て、東京市×區役所に勤めるやうになつてから正に十年。もちろん病氣なんてことは夢にも知らず、文字通り精勵恪勤で、その上、稱讚に値する几帳面さをもつてゐる。

起床、朝食、出勤、他は敢ていふを用ひず、印形で捺したやうなその日その日を、彼は日本の汽車のやうに、正確に走つて、かつて脫線したことがない。脫線といへば、野呂伸三君、すでに三十を越して、未だ人に語るべき一つのローマンスも有つてゐない。

『野呂君は小心者だよ。第一、勇氣がない。從つて冒險を知らない』

さういつた同僚の蔭口も或は適評かも知れない。だが、野呂君に云はせると

『冒險もローマンスも、ありや皆小說の中の出來事だよ。現實の世界に我々を夢中にしてくれる冒險なんて、あるものぢやない』そして肚の中で、獨りで自分に云つて聞かせる。

『もし、さうした冒險が眞實にあつたなら、何に、俺だつて魂を打ち込んでかゝるくらゐの勇氣はある――』

だが、區役所に勤めて十年、獨身者で煙草屋の二階に下宿して、『勤めと讀書と散步』と、狂ひなき軌道を步いてゐるところを見ると、野呂君自身は依然として現實の世界に冒險のないことを信じつゞけてゐるらしい。讀書といへば彼は小說が好きである。小說も固いこらない『讀み物』である。現實のローマンスを信じない彼は、勢ひ物語りの世界に、ローマンスを求めて、滿足してゐるかもしれない。

ところがどうした風の吹き廻しか、かうした野呂伸三君が、一世一代の冒險を敢行して蔭口をたたいた同僚達をあつといはせた話。

二

十一月のいかにも小春日和らしく好く晴れた土曜日の午後であつた。

野呂君はいつもの通り、早目に區役所を出て、土曜日の習慣の一つである散步に出かけた。散步といつても銀座の鋪道ではなく、必ず公園ときめてゐる程、左樣に彼は古風である。

時間も約一時間、公園の林間を步いて、十分閑かな秋の空氣を吸ひ込むと、彼は公園を後に愛宕山のトンネルを拔けて、下宿の方へコツコツと靴音を立てて步いて行つた。

と、突然、――全く突然。彼の目前に、明るい夕陽を受けて、ピカッと銀色の弧線を描きながら、何かしら忽然と步道に鳴つた、と思ふと、それがコロコロと彼の足元に轉げて來た。

『おや！』

ヘッとしながら、足を止めた野呂君が、少時、まじまじと自分の足元を凝視した。それは銀色をした美しい西形白粉容器だつた。

つと、それを手にとつた野呂君が、次の瞬間、強度の近眼眼鏡を秋の夕空に光らせて、右側の建物を振り仰いだ。と、恐らくあの大震災に生き殘つた記念物であらう赤い煉瓦の二階建の、窓格子のはまつた小さい窓から、ぢつと此方を見下してゐる眼！。

が、その眼は瞬時にして消えて、そのまゝペンキの剝げた鎧扉がおろされた。

若い美しい女だつた。確に、あの女がこれを投げたに違ひない。

彼はふるへる手先で拾つた容器を開けて見た。と、無殘にも毀れた鏡の上に、何やら赤い紙片が、白粉の粉にまみれて入つてゐる。見るとその上に鉛筆で何か書いてある。

野呂君は、漸く暮れかゝつてきた薄明りに近眼鏡を押しつけて、文字に見入つた。

――救つて下さい。監禁されてゐます。S・O―

その時、初めて何ともいへぬ香料のほのかな匂ひが、ぷーんと彼の鼻をかすめた。が、彼はパチンとケースの蓋を閉めると、そのまゝポケットに押し込んで、建物の入口を横目に睨みながら、スタ／＼とその前を通り過ぎた。（續く）

科學小說　魚雷は躍る

南太平洋に海戰の火（上）

松尾壽明

A

フイリツピン方面の東方海面を哨戒しつゝあつた日本の潛水艦伊第五十七號は、はるかの東方海上に一汽船を發見して、これを尋受けた。

第五十七號は、昭和二年七月吳工廠に於て竣成した新銳潛水艦で長さ百一米、幅七米九〇、排水量一六三五噸、その水上速力は一九節、魚雷發射管八門を備へてゐて日本國防の第一線に立つてゐる潛水艦である。

この五十七號は、アメリカの國旗を掲揚する汽船ハドソン號が、アメリカ海軍省の命をうけ、多數の彈藥及び飛行機材料を積んで、ハワイのパール軍港よりマニラに向ひつゝあるから、これを擊沈せよとの海軍省からの祕密命令をうけてゐたのであつた。

『艦長！右舷艦首に船らしいものが見えます』

潛水艦の艦橋にあつて、精巧な國產雙眼鏡を手にしながら前方を注視しつゝあつた信號兵はかう叫んだ。

『なに、船が見える、無人島ぢやないか』？

艦長天京少佐は、かう云ひつゝ雙眼鏡を取上げて、きつと前方を見詰した。

『どうも汽船のやうです』

暫くして信號兵がふたゝび報告すると艦長は急に舵手に命令した

『面舵！右舷艦首を船に向けい！』

第五十七潛水艦は怪しい船へと近づいて行つた。汽船の方では、それを知らないもののやうに、だんだんと潛水艦の方へと近づいてきた。

雙方の距離三千メートルにまで近寄つたところ、汽船の方では急に針路を反轉して、反對の方へと走り出した。おそらく潛水艦を發見したのであらう。

『戰鬪！』

天京艦長の甲高の聲が響つた。この號令と共に、全員は戰鬪配置についた。それを見た艦長はさらに命令を下した。

『砲員は彈藥をこめた上砲の傍に出れ、砲は命令あるまでは、砲口を向けてはならんぞ』

二つの艦はだんだんに近づいてくる。そこに又信號兵が叫んだ

『アメリカの商船旗です。ハドソン號らしいです』

このハドソン號は世界第二番目の代表的優秀船で全長八八三呎、幅九十呎、總噸數二萬九千噸、速力二十七節、一九三三年十月竣工したもので、アメリカの自慢の一大巨船であつた。

B

二千、千二百、九百メートルと距離はますます近よつてくる。見ればアメリカの商船も、戰鬪準備を整へてゐるものゝごとく、その砲員は砲側についてゐる。

兩艦の距離が七百メートルまで近づいたときである。潛水艦の信號兵は、忽ちに聲をふり上げた。

『アメリカの商船は砲をこちらへ向けました』

途端に天京艦長の號令は雷のやうに全艦に響いた。『打てつ』

ドドーン、忽ちに一發の砲彈は飛んで、汽船のすこし手前に落下した。續いて二發、三發、今度は彈丸が汽船の船首に落ちて水煙を上げた。

『どうもあの汽船は馬鹿に速力が早いやうであります』

と、機關少尉がいふ。

『うむ、大分早いやうだね――速力を增せ、全速！』

潛水艦五十七號は、艦首に白浪を立てながら、汽船をめざして追跡した。

『魚雷用意！』

艦長は、また號令を下した。全員は極度に緊張した。間もなく魚雷發射管から號令と共に、シユッと魚雷が飛出しながら發射された。目にもとまらぬ速さですつつと海上を飛ぶやうに走つた。と凄然たる大音響が起つた

『あつ、船尾に命中しました』

機關少尉がかういつてから間もなく、今まで全速力で走つてゐた汽船は、たちまちに停止した。おそらく逃げることは不可能だと觀念した爲であらう。

續いて潛水艦からは、一艘のボートが卸された。十數名の武裝した水兵は、機關少尉に引率されて汽船に向つて漕いでいつた。冬とはいへ赤道に近いこの方面では、炎暑燒くがごとく、海面には大きな鱶が泳ぎつゝあるのがみられた

やがて武裝隊は、士官を先頭として汽船へと上つていつた。潛水艦は汽船にちかよつて砲口をこれに向けつゝ、結果如何にとまちかまへた。

遂に海戰の火蓋切る

十分、二十分、時計の針は刻々にすゝんでいつた。凡そ三十分も經つた後、汽船の船橋に立つた日本の水兵は、潛水艦へ次の信號をつたへた。

（船舶書類怪しむべき點なし、船長は斷然にして實を吐かない。乘組員を訊問したところ。彈藥を積み込み居ること確實なるものゝごとし、目下々艙を點檢中）

五十七潛水艦長の愁眉はやゝひらいた。第二の信號はつたへられた。

（多數の彈藥と飛行機材料を發見す。船員の手にて爆破の恐れあり警戒中、いかにすべきや）

これに對して天京艦長は、次の命令をあたへた。

（爆破せざるやう萬全の注意をなせ、艦は拿捕の上、カロリン群島へ避航せよ、本艦これを護送す）

そして艦長は、すぐカロリン群島の某島にある第〇戰隊司令官を呼んで次の無線電信を打つた。

（本日午前九時頃〇〇〇の東方二百浬の洋上において、米艦ハドソン號を拿捕、直ちに護送して〇〇島に向ひつゝあり、多數の彈藥、飛行機材料を積み居れり、爆破の恐あり、すみやかに驅逐艦を派遣されたし）

それからまもなくカロリン島の某島からわが驅逐艦ゞ風と疾雲の二艘が、全速力で急航してきた。五十七號潛水艦は、護衛の任務をこれにひき繼いで、定められた任務へと去つた。

〇月〇日の夕刻、日本全土の各新聞紙は、次のやうな號外を出して、國民を歡喜せしめた。

アメリカ軍事輸送船拿捕さる

伊第五十七號潛水艦は（艦長天京良輔少佐）本日フイリツピン、ルソン島の東方沖合にてアメリカ運送船ハドソン號の船尾を爆破しこれを臨檢多數の彈藥飛行機材料をつみ居ることを發見してこれを拿捕した

――霞ケ關海軍省の門前には、多數の群衆があつまつてひつきりなしに萬歲の聲を擧げたのであつた。

潛水艦――この名ほどわれら日本人にとつて、一番心強い名前はない。日本潛水艦の名は外國軍艦にとつて恐ろしい海の怪物とも聞えるのである。潛水艦は、名のごとく海中にかくれ、大きさは二千噸にも足らぬくせに、何千浬も遠くの海まで進んでゆき。そして敵の眼を避けながら、偵察をしたり、水雷攻擊をしたりするのである。戰艦の周圍を、嚴重に警戒してゐる驅逐艦や巡洋艦の底をくぐり一發、また一發、持つてゐるだけの魚雷を射つて、敵の戰艦を沈めてしまふ痛快な艦である。

その潛水艦の艦隊攻擊はどんな風にやるのだらうか。

潛水艦は沈んでしまふと、外から見えなくなる、また通信もなかなかきかない。だから驅逐艦のやうに、何隻も艦をくんで、攻擊することは出來ないのである。敵の艦隊にちかづくと、潛水艦隊の司令官は、部下の潛水艦長に、

『勝手に沈んで、勝手に敵艦隊へ攻めてゆけ』といふ意味の命令を下す、すると潛水艦は、一瞬一分間ぐらひで沈んでしまひ細長い潛望鏡の先を波の上に出して、敵を見張りながら、近づいてゆくのである。そして敵の驅逐艦の底をくゞつて戰艦に近づき、魚雷を發射して、すぐに海中深く沈んで逃げてしまふのである。

もし、そのとき、潛望鏡でも敵艦に發見されたら、たちまち爆雷攻擊をうける危險があるのだから潛水艦長は、虎のやうに强い心をもつて、豹のやうに機敏でしかも實驗室にゐる科學者のやうに、注意するのである。――潛水艦は、タンクに水を入れたり出したりして、浮いたり沈んだりする、そして水上を航進するときは、デーゼル・エンジンといふ機關で走り、水中を進む時は、電池の力で動くだから潛水艦の中は、色々に細かな機械でいつぱいである。その上魚雷發射管を七つ八つから、十四ぐらゐ備へてゐるし、また機雷をうんと積んでゐるのもある――大砲は十五糎以下の小さい砲が甲板の上に備へてゐるだけである。だが、小さい大砲をつんだ商船なんかと戰ふときには大變役に立つのである

D

魚雷は魚のやうな形をしてゐる發射管から射ち出されて、自動的に水中をはしる水雷である。大砲につぐ攻擊兵器である。いまの素らしい魚雷は、直徑が五十三糎速力が三十二浬、または四十浬ほどあつて、一萬メートル以上を遠くへ走つてゆく

構造は、頭のほうに火藥をつめて、中ほどに壓搾空氣をため、一番うしろに小さい機械部と舵がついてゐる。

發射管から、火藥や壓搾空氣で海の上へうちだされた魚雷は、大膽精巧な機械の力で目標に向つて走つてゆくのである。だが、戰艦の方も、ぼんやりと魚雷の命中するのを待つてゐない、全速力で魚雷の襲擊をさけるしまた、たとへ命中しても、艦の中はたくさんの壁でしきつて、二重底になつてゐるし、その上、バルジといふ袋を水中に備へつけてゐるのである。また、いゝ雙眼鏡も出來てゐるし航空機からも偵察してゐるのだから魚雷襲擊はすぐに發見されるのである。だが決死の肉彈襲擊なら、必ず命中する。そしてその決死の肉彈襲擊は、わが日本潛水艦や日本驅逐艦などは、世界第一であるそれは天皇のために闘つてゐるからである

この伊第五十七號が、日米爭艦隊が太平洋で雌雄を決せんとするところ、ハワイのパール軍港附近に、單身日本海軍得意の奇襲を試みたときのことであつた

神合遙かの海上に、突然大きな形狀の何ものかが、二三動きつゝあるのを發見した

『なんだかアメリカの潛水艦らしいぞ、おい、先任將校よく見ろ』

天京艦長は、傍の機關少尉をかへりみつゝから云つた

『どうも潛水艦にしては――あつ海中へ潜つた、奴さん、逃げるところかな』

『驅逐して、一發打取らう。――おらい、魚雷發射用意つ、取舵ッ！』

五十七號は、快速力ですゝんだ。そして少しく左方に轉じた。怪物との距離は、いまや三百メートルになつた。天京艦長の口をほとばしつて、金鐵のやうな一令が出た

『打てつ！』

一發の魚雷は、命中率を狙つて海をくゞり時に空間を走り敵潛水艦へと飛んで行いた

『あつ、命中』

艦長はじめ乘組員は拍手喝采した。爆發の現場にちかづいた。そのとき、何人も驚いたのは、附近の海面が、眞赤な血潮をもつて彩られてゐるのである

E

『人血にしては怪しい？』

と、不審におもつてゐるとき、數分間にして、浮きあがつたものは、艦長以下乘組員の期待に反して、それは一匹の大きな黑い鯨であつた

『なアんだ、鯨か』

『わつはつはつはつは』

『あつはつはつはは』

艦長天京良輔氏は、第〇艦隊司令官に向つて、――本艦唯今大鯨を擊沈す――と打電した。と、まもなく司令部より――大鯨とは何？米國軍艦にや、支那軍艦にや、不明につき詳報せよ。

天京艦長は、微苦笑しながら、『たいげいとは、海の潛水艦にして大鯨のことなり、軍艦表中に見當らずと雖も、世界の魚類表中にはある筈』

さういふ返信をした。

この返信をうけとつたカロリン群島の某島にある第〇戰隊では、どつとばかり笑聲をあげたのであつた。（完）

賀正

全羅北道會議員　板井信藏　裡里
全北黃登　片岡和三　電話六番
裡里邑會議員　在鄉軍人分會長　新井久一
裡里榮町　青木堂　電話二四番・一七四番
全北益山郡成曲　關寬一郎
裡里　御料理寫會　カフエー　むさしの　ほまれ　電話一三六番
全北裡里榮町　朝鮮酒醸造　堀內三郎
裡里邑中出　醫師　大野玄四郎
裡里驛前通り　タシロ食堂　電話二五四番
全北黃登　青木長藏　電話四番
全北裡里　益沃水利組合　組合長　藤井寬太郎
裡里醫師會
益山郡守　吉津五郎
全北咸悅郡面　村井留吉
裡里　キング寫眞館　電話一〇七番

全北大場村　今村一次郎
湖南錦成東國前　多木農場
裡里工友會
裡里公立農林學校　職員一同
全羅北道會議員　在鄉軍人分會長　青田竹治　裡里
全北裡里　朝鮮棉花株式會社　裡里工場
裡里藥業組合
裡里　寫會　一樂　電話二一番
全北裡里　コガ肛門病醫院　電話二二〇番
全羅北道道會議員　朴智根
裡里土木出張所　所員一同
裡里座
裡里公立小學校　職員一同
農事試驗場南部支場長　和田滋穗
益山郡五山面五山里　五山公立小學校　五山公立普通學校　五山面
裡里學校組合議員　武市知十郎
裡里公立高等女學校職員一同
裡里邑會議員　土車仁作
裡里　横田吳服店　電話二一四番
裡里材木商組合
テキサス石油全北總代理店　北川省馬商店　電話一四〇番

東津水利組合長　齋藤竹次郎
裡里木曜會
裡里　アソカ幼稚園　園主　有路
全羅北道穀物檢查所裡山支所　裡里出張所員一同
裡里　御菓子　浦野梅月堂　電話一三〇番
裡里　井上豊三郎　電話五七番
裡里寺町　山田肉店　電話三三番
裡里學校組合會議員　石崎梅次郎
裡里　兼藤履物店　電話一〇八番
裡里寺町　山下食料品店　電話二七三番
裡里驛前　果物商　山野商店　電話一三番
裡里　貴金屬寶石時計眼鏡　在間昭美堂　電話四一番
裡里榮町　角道洋品店
裡里學校組合議員　松浦英夫
裡里榮町　ツルヤ洋品店　電話三一番
裡里邑會議員　草ケ谷英之助
裡里學校組合出納役　松尾熊太
裡里　上岸自轉車店　電話一四七番
全北黃登　黃登公立普通學校
裡里本町　御料理　末廣　電話四八番
全北礪山　礪山六八會
全北大場村　田坂佐三郎
裡里邑會議員　裡里學校組合會議員　五百藏道樹
益沃水利組合　職員一同
裡里學校組合會議員　田村龍助
裡里榮町　堂本百貨店　電話一二二番
裡里京町　駒井印房
裡里　南中町　福島玉山堂　電話三五五番
裡里邑會議員　文致淳
裡里驛前　朝日屋旅館　電話二三四番
裡里驛長　高橋宜郎
裡里學校組合議員　阿波榮一
裡里驛前　共同荷主運送店　電話一〇六番
湖南穀物檢查所　權代廣之
裡里公立普通學校　職員一同
裡里　カメヤ菓子舖　電話一二〇番
裡里　全北繩叺株式會社
裡里新社　社長　黑山無宏
裡里　宮坂鐵工所　電話二七一番
全羅北道農事試驗所長　安東直
裡里　玩具文房具　山崎商店　電話一四番
裡里寺町　土屋酒店　電話一〇番
裡里學校組合會議員　松村松一
裡里三十日會
裡里米穀商組合

『全日本三分の計』
めざせ王座、陸上日本
手を握つて一路驀進せよ 【下】

總督府 家永正彦

そのためにのみ職業が出來組織の統一が必要となつてくる、さうしてファンの一面の向上は吾等競技者とは大部緣遠い間接的な進路なのである、それは又部の方面から考慮されることであるが、その選手競技者と云つても千差萬別であつて小學校から中學校專門大學校といふ様に又一村の代表もあれば一道一地方一國の代表競技者もあるといふ様に分れてくるこれらの競技者に一様の目標を持たせ一様の方法によつて競技向上を策する事が出來ればこれに超したことはないがこれ又仲々むづかしい。否多くの不可能に近い困難を伴つてくる、その技術に於てその精神力に於て又競技そのものに對する態度に於てその現れる力以上の差異を發見する

それであるから同じ目標に對する認識が努力が大いなることゝなつて現れて來るのである、私は茲に於てその強化の對象を何處におくべきやといふ問題にブッつかる、私は固く自己の信念は私の過去の經驗がさう命ずる。第一線の士の強化即ちそれであると、或程度の選手制度を一倶樂部といはず朝鮮といはず全日本といはず採用しなければその目的は達成されないと思ふ、それ故に私は絶えず朝鮮にも選手制度を設けよと叫ぶのである

陸上朝鮮

王座を目指して半島第一線の士をいかなる方途によつて強化卽かんとはする

『全日本三分の計』それこそ自から卽ふ半島の具體的第一歩である全日本三分の計とは何ぞ全日本が萬國オリムピック、極東その他、對外的に一國を舉げて戰ふ時常にその三分の一の選手を朝鮮から送るといふ意味である、三十名なら中十名を五十名なら十六名を、今は只最善をこの一年に爲すべき方法が決まればいゝだけだ彼だと言つて居る時ではあるまい吾も彼もと馳せさんじ氣を一つに合せてこの大業を完成すべき時である

さうして三分の計の第一年次一九三四年は

(一)春は極東へ (選手四十名として五名を)
(二)秋は日米へ (選手四十名として五名を)
(三)マラソンは朝鮮から (選手四ならば中二名を)

の目標の下に先づ

(一)選手圏の創設
(二)コーチの委囑
(三)マラソンレース及驛傳の奬勵を施行すべきである

(一)の選手圏の創設は先づ仮所一九三三年度日本十傑に入選せるものを以つて組織しこれを極東大會目指して強化する

第一線全力主義こそ吾が年來の宿願である

第二線第三線以下の強化は一先づおき第一線の強化の方策のみを建てよ

而して吾のシーズン終ると共に朝鮮內の五傑を加へたものに之を擴大し廣くへの徑へを眼くする

(二)コーチの委囑は一定の資格ある者例へば曾つてオリムピック大會極東大會に出場したる者とか全日本の十傑に入選したるものとかの人々を集め、その人人をして最も適當と信ずる者一人乃至數人を選ばしめそのコーチャーの全權を委囑するコーチャーに選ばれたものは獨自の立場より何等の制御を受けずにその方策を遂行する

(三)例、金剛選手の一昨夏の獲得以來不拔の位置を獲いたマラソン朝鮮は昨秋神宮で再び南昇龍によつて世界第二位の記錄を樹立し半島にマラソン熱の拍車をかけた觀がある、この時この際一步に基礎を固め『マラソンは朝鮮から』なる觀念を抱かしめ他をして一指をも觸れさせない様にする、そのためにはマラソンレース及驛傳を再々同一コースに於て行ひこの記錄を權威あらしめ同時にこの競技者に特點を與へる

例へばマラソンの種目に於ける朝鮮選手圏の一員は如何なる狀態にある共必ず內地に機會ある毎に派遣する如き

以上の如き方針で進んだなら一年と雖も相當な效果があると信ずる選手圏の創設は私の年來の主張であり昨秋全日本もこの言を入れて採用を見たが出來て見ればこれを生かすも殺すも一にコーチャーにあることを痛感する。私も責任者の一人としてその健全なる發達を祈つてやまない

全面的強化のためには組織も大切だし統制も必要だが今日の情勢はその樣な悠長な路を許さない、一日も早く半島のそれを強力化し內地に劣らないためには技術的方面に於て絶えず研究しざん新な訓練をつまなければならない、內地の習慣ばかりなめて居る狀態を早く脫したい。特殊の技能ある人材の居る地方は他を拔んじて進歩することは確だ

若し同じ様な道を歩むとするならばその點では近畿が一番惠れて居るといふ事が出來る。一人の織田が居るために、さうしてそれで織田山なのだ

見よ近畿跳躍の強化の姿を、學べその擴大の足跡を

×

希望と躍進を約束して開け放たれた一九三四年の新春劈頭陸上日本陸上朝鮮を貫いて心に浮ぶ事を少し綴つて見た

スポーツ指導者よ
理解者で擁護者たれ

京城師範 鹽崎光藏

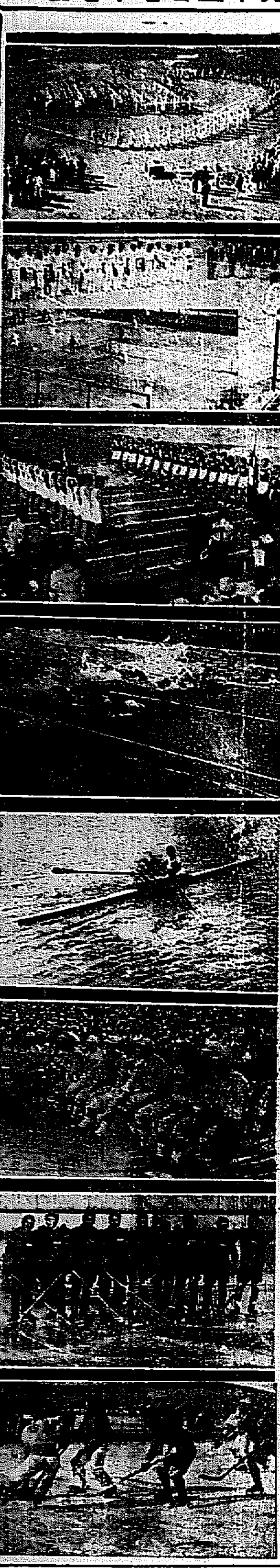
年と共に幾多の試煉を經て我が半島スポーツ界も過渡期に在りとはいへ長足の進歩を見せてゐる

然しながら吾人は靜かに過去の經過を追想する時大局的見地より多くの考へねばならぬ事柄が横たはつてゐる

卽ち最も痛切に吾人の腦裏に刻みつけられた事柄を率直に表はすならば、『スポーツの指導者よ、關係者よ、今一段の勉勵をなせ而して眞に正しいスポーツの理解者にしてその擁護者たれ』と云ふ事である。以上の事柄は誠に簡單なる言葉である。然しながらこの簡單なる事柄がどれだけ現在の否、過去の半島スポーツ界に如實に示されてゐるか？吾人は甚だ疑心に堪へないものがある。卽ち一の事件に、或は邪薬をなさんとするに當り、其の關係者の態度たるや、徒らに感情的にて自己の非を悟らず且スポーツの眞に自己の社會的地位的意識の發現と見ぼしきものあるを見、或は唯單に感情的、對人的思想に走り、途に觸着をして、何故にスポーツ關係者はどこまでも眞正なるアマチュア・スポーツ精神のために努力と犠牲をおしむやの感を深く抱かしめ、眞に正しいスポーツを理解し居らざるが如き行動のありたる、まことに以て斯界の一大痛恨事といふべきである。是れ要するに、スポーツ指導者、關係者の不勉強、不誠意によるものと吾人は解するものである

吾人の所願範圍といひ、理解と稱すべき事柄の內容は卽ち[illegible]を啓き、眼を持ち、オールをラケットを握りての經驗は最も望ましき事なるもその經驗の有無は云々すべきものでなく、むしろより多くの機會を摑み、眼球よりの經驗或は一面他方面への勉強によりてスポーツの氣分を味はひ得べく努力し行く所に眞の正しいスポーツの理解が出來るものであると斷言するものである。斯くの如く努力し來るならば、事にのぞみ、眞に眞のアマチュア・スポーツ進展のために何事か他意の起らざらんやである

時正に新春を迎へ眼前にマニラ極東選手權大會を控へ、且一九三六年を期してベルリン萬國大會を迎ふ、茲に我が半島スポーツ界も愈よ多事飛躍の機至れるの時、スポーツマンよ、指導者よ、關係者よ一致團結小を捨て、大を採り益々一層アマチュア・スポーツ競技の大精神に聯在邁進される事を希望するや切なり(終り)



今冬の氷上競技界

朝鮮氷上競技聯盟では本年度のスケヂュールを確定し新興の意氣に燃えて活躍することゝなつた

即ち鮮內にあつては一月初旬朝鮮神宮競技としてスピード、ホッケー、フイギュアの各種目にわたつての大會を體育協會氷上競技部の事業として行ひ、外に對しては全日本選手權大會(ホッケーは一月十九日から三日間東京芝浦リンク。フイギュアは一月十三、四日大阪朝日リンク。スピードは二月三、四日安東)及び明治神宮奉贊競技大會(一月廿五日より四日間。スピードは日光細尾リンク。他は東京芝浦リンク)に選手を派遣するはずである。また全京城對全奉天のホッケー戰は例年通り舉行し奉天で行はれる日滿對抗戰にも出來得る限り選手を送る豫定で次のオリンピックを目指して邁進途上にある日本のスケート界で本年朝鮮の選手が如何なる活躍をみせるかはけだし注目に値しやう

因みに全日本の規定により無所屬の選手は全日本明治神宮何れの大會にも出場出來ぬ規定で、この規定は今年より特に嚴守されることになつてゐるから大會出場希望の向きは登錄料五十錢を添へ至急左記へ申込まれたい

龍山鐵道局經理課內 朝鮮氷上競技聯盟

體育運動統制と
保健の樹立に期待す

凡そ現在の體育運動競技なるものが、それ等に親しむ人々のための娛樂的なエンジョイメントの色彩のものとしてのみ存在することを前提とするなれば論議の對象とはならないが、少くとも社會的に強化の使命を持つ一個の社會事業として考へるなれば、その使命達成のために、よりよき統制の必要なことは言ふまでもないことである

幸ひ 半島のスポーツ界は昨年朝鮮體育協會の組織改革により其の內部に全朝鮮陸上競技聯盟、全鮮籠球協會、統一へと進み來つた大日本バスケットボール協會朝鮮支部、大日本バレーボール協會朝鮮支部其他の種目別代表的團體や各道體育協會を含有し野球、ラグビー等に就ては朝鮮神宮競技を中心としてこれ等の代表的團體と密接な友好的關係を保持しつゝある而も現在內地に於ける斯る位置上の一大懸案である全日本的種目別統一團體と府縣體育協會との對立は現在の朝鮮體育協會の組織では發ふることがない

この 點洵に我々の幸とすべきではあるが、その內容の一々の點に至つては、まだまだの感なきにしても非ずである。要するに大綱は決定した。今後はその形作る一々の分子が堅實の內容を持ち其の內部的飛躍を遂行すべきことである。世の中の人との様には『組織よりも人の質である』と言はれるのを聞く。筆者は立派な組織の許に然る可き人物を得て而も凡ての人々の和によつてのみ半島スポーツのユートピアは實現されるべきを信ずるものである

◇

去年 我が朝鮮學生々徒兒童の保健狀況を數字的に統計し、今日、本年度のこれ等に就て研究しつゝあるが、其の統計標準は兎も角として、其の內的保健狀況に於しては寒心せざるを得ない事實を多々發見する。彼等の罹る疾病の主なるものは、扁桃腺炎、諸眼疾、腺病、鼻カタル、結核性呼吸器病等で、これ等の疾病こそ、概して朝鮮の如き比較的寒暑のはげしい土地で體力の消耗なしかも不健康な人間に最もありさうな病氣である

以上 はたゞほんの一例にすぎないが、要するに筆者の統計からみれば、內鮮人共、決してその保健狀態にあり得ない、言ふまでもなく、保健の唯一の機關的方策は正しい體育運動に親しむことである。特にこの觀念は、人間の飛躍發展の基礎をつくるべき學校生活中に於て最も肝要たるべきを確信する。

筆者は未だ不幸にして全鮮々々の學校を訪ね親しく保健教育の實際を見せて戴く機會がないが、この學校教育に於て、學生々徒兒童のよりよき保健のため、體育運動の分野に於て、學校衛生の施設及び管理にあつて、當然なすべきことが多々殘されてある樣に思はれてならない。

而も、この點はこれ等學校を監督指導すべき當局の內部に於ても、その當局の機關のなきことである

◇

國難 打開、非常時の三四年の半島スポーツ界に期待することろ筆者にも決して少くない。然し本年は年頭に際し、如上の二つを特に期待したい

短かい矢の如く過ぎ行く一ケ年の本年に於て、幸この人々の同情と和によりこの期待が一歩でも實現されることが出來れば幸甚この上もないことである(完)

マスターオブ・フイジカロエヂユケーション 竹內一

氷上界便り

スケートシーズンの皮切りは來る十月二十八日から三日間日光で開かれる中等校選手權、高段大會で續いて一月二日から七日まで六日間大學選手權大會が之も日光細尾リンクで行はれる。全日本選手權はフイギユアを一月十三、四兩日、ホッケーを十九、二十、二十一の三日間[illegible]リンクで、スピードは二月三、四兩日安東で行ひ神宮競技は二十五六兩日日光でスピード競技を行ひ二十七、八兩日、芝浦リンクでフイギユアとホッケー競技を行ふことに決定した

非常時と運動
小異を捨て大同につけ

中馬越山

國を思ひ寝られざる夜の霜白し燧火よせて見る劍かな

これは幕末水戸の志士梅田雲濱先生が、國を舉げて開國攘夷と、王政復古の三大潮流のため、喧々囂々國論沸騰して、歸趨を失はんとするの秋、憂國の至誠より寝られざる夜の霜白き晨、明煌々たる三尺の秋水を引き拔いて、燈火の下に腕を扼し、日本精神を嘆いて慷慨の矢をもらされた有名な歌である

◇ ◇

私は今日本の現狀を顧みる時、不安焦燥雰圍を極めし幕末の當時に比し、寧ろ勝るとも劣らざる不安と危機に遭遇してをると思つてをる

この時に當り我朝鮮の體育の狀態は如何に、昨今體育協會の革正が叫ばれて更生したものゝ、スポーツ界に最も尊きをなす、陸上競技の近狀は如何、問題から問題を生んで不安焦燥の惑を深くし、統制を失つた感がある

◇ ◇

これは當事者に運用の妙を得ざるか、人の和を缺くか、組織や機構に缺陷があるか、何れにしても非常時局の折柄、舉國一致を叫ぶの秋、民心の作興と剛健なる體魄精神の涵養上、善いことではないと思ふ。本年度は梅先生の精神を體し小異を棄てゝ大局につき、互に提携一致してスポーツ界のため戮力協心大に邁進の盛昌に、貢献せられむことを望む

白熱化する軟式野球
協會の三三年スケヂュール

盛況に盛況を重ねて發展にかはる人氣の大半を獨佔し、まさに白熱のクライマックスに入らんとする半島の軟式野球熱は三四年に入つて果然一入の華やかさを加へんとしてゐるが朝鮮軟式野球協會は本年も本社後援の下に左の如くスケヂュールを發表した

◇京城春季大會 五月より六月
◇全鮮大會 各地豫選六日から七月
◇全鮮大會 八月十二、十三十四の三日間
◇京仁對抗豫選 九月
◇京仁對抗 十月

寫眞―(上から)―第十回全鮮野球爭覇戰の入場式の壯觀―第十回全鮮庭球大會の入場式と試合―早大對全京城對抗陸上競技大會の兩軍入場式―全奉天對全京城水上對抗レース、朝鮮神宮端艇大會のスカール競漕―早大第二軍來襲し在城軍と交戰した―明大氷上部滿洲からの歸途入城し漢江で戰つた―朝鮮アイスホッケー聯盟のリーグ戰―

明暗旗本男 (65)

大島多慶夫
(畫) 寺田英三

別離 (一)

十郎左衛門の功名心は烈火のやうに燃えて、また符の軍船をひそかに佃島の沖からくり出し、蠻賊の根據地である城ヶ島へ向つた

そして、こんど用意して行つた銃をもつて、無暗に狙擊したが、一向に先方からは手應へがなかつた。

『こりや變だ』

と、まづ五左衛門は怪しんだ。城ヶ島の要塞は太古の様に森閑として、のたりくと穩かに打寄せる波うち際には、數知れない鷗が怪しく啼いて遊び戯れてゐる。

十郎左衛門は攻方を停めさせた

そして、五左衛門を隊長として一隊だけ敵の根據地を探りに遣る事にした。

岩づたひに上陸した五左衛門はその附近の形勢を觀望したが、人の影を認めることが出來なかつた

『逃げた』

と、五左衛門は呟いた。

そして、猶油斷なく身構へながら奧へ進んで行つたが、假りに建てた蠻賊の陣屋も、また北邊の岩に穿たれた窟にも、敵らしい影がないのに唖然としてしまつた。

『何處へ逃げたらう』

と、五左衛門の敏捷な武藝は鋭く働く。

不圖、彼等相當に地理を知つてゐる江戸の巷へ潜行したのではなからうかと直感に考へて見た。

沖に足留りしてゐる船からは、しきりに合圖の旗が振られてゐた。五左衛門も腰に挾んであつた小旗をとつて、小高い丘の上から合圖をした。

えつさくえつさと船頭の掛聲勇ましく、十五六艘の軍船が城ヶ島めがけて漕ぎ寄せた。そして、我を爭つて上陸をして來たが、すこしも敵影がないので何れも拍子ぬけのした顔を見合つてゐるばかりであつた。

十郎左衛門は加賀爪甲斐と近藤登之助と倶に、五左衛門について方々を探し始めた。そして、岩と岩との狹い入江になつた所に、半ば壊れ捨てられた怪船の殘骸を發見したのであつた。

『おゝこの船だ』

と、五左衛門は頓狂に叫びながら、過去の記憶を呼び返した。

五左衛門は飛び移つて、燒け焦げて見るも無殘になつた船中を探し廻つて、そこに首のない蠻賊首領の死骸を見付け出した。

『水野氏。こゝへ來られい。蠻賊の首領の死骸があるぞ』

と、五左衛門は嬉しさうに叫んだ。十郎左衛門を始め老巧者も緊張して飛び乘つて行つた。

『うむ。これが首領の……？』

と、十郎左衛門は首のない死骸を極めて見た。

『何處へ、首をもつて行つたらうな』

と、五左衛門はいかにも殘念さうに呟いた。

十郎左衛門は落膽したやうにふかい溜息をついたが、殘つてゐる船內を、隈なく探して見た。鏡類とか、又、武器とか、什器とか、いふやうな目星いものは一個も殘されてはゐなかつた。たゞ燦然として光つてゐるのは切支丹宗の像になつてゐる黃金像であつた

『素早いことをやつたな』

と、十郎左衛門は苦澁さうに呟く。

『江戸へ忍び入つたに相違ござらん』

五左衛門は獨り言のやうに云つた。

『それでは困る』

加賀爪甲斐はから云ひながら、十郎左衛門の顔を見やつた。

『いや。面白い。一つの退屈凌ぎが出來たよ。殘黨退治は白柄組が引受けてやらう』

『それも好い』

と、近藤登之助も同意した。

が、何を考へたのか。五左衛門は靜かに俯向いたまま、重苦しい太息をついた。

『松平氏。どうなされたか』

と、十郎左衛門は眉をひそめて訊く。

『俺はいよく江戸を見捨てなければなるまい』

『なぜ』

『御身から公儀へ對して、俺の命乞ひをして貰ふ約束のものが失つたからぢや』

『蠻賊の首領の首か』

『潛入するのも、來るかも知れないな』

と、五左衛門はいかにも寂しさうに云つて、微かに笑つたのであつた。

謹賀新年

大日本製糖株式會社
朝鮮支店

水銀、靑酸加里、鑛山用藥品一切卸賣問屋
阿部藥房卸部
京城本町三丁目
電本四八七番

京城明治町二
ワタナベ美粧館
電話本局九五八

京城黃金町五
龜屋旗店
電話本局二五八五

京城永樂町二丁目
新興キネマ
京城支社
電話本局二〇四四

公債株式賣物問屋
清水哲太郎商店
京城明治町一

朝鮮土木建築協會
京城府旭町一丁目
電話本局七三五番

京城府旭町一丁目
本券番
電話本局 二六五 一九七番 一八〇八 二〇六八番

謹賀新年

合資會社 大阪號
營業課目
大阪號百貨店
大阪號貿易部
大阪號食堂
大阪號醫院
土地建物部
保險部
仕入部 大阪市東區南大寶寺町

木材販賣及製材
合資會社 三谷商店羅津營業部
本店 大阪市港區本町

田代龍太郎

羅津在郷軍人分會
副會長 秋山健治

迫喜之一

羅津駐在所長
警部補 前田美穗

新安面長
齋藤長治

新安普通學校
校長 佐藤秀雄

豊住醫院

羅津齒科醫會
中央齒科醫院
田口齒科醫院
鈴木齒科醫院

木村[illegible]

土地建物賣買、賃貸借管理
評價鑑定並不動產抵當
北鮮殖產社
雄基港日之出町
營業所 羅津港本町

カフエー
三ツ輪

羅津商工會
會長 岩石憲人
副會長 金琪宅
同 柳瀨馨
常務議員 井上賢朔
同 上林通成
同 吉原豊吉
同 湯澤敬重
同 三上穆二
議員 池廣壽一
同 太田耕平
議員 若林邦重
同 村上兵衛
同 村上傳三郎
同 野村泰作
同 藤澤爲二郎
同 小山太郎
同 北村久七郎
同 姜塽
同 柴岡義則
書記 山田耕三

須藤洋服店
本町二丁目

中山郁亮

土木建築請負業
水島組

東京興信所
山本庫一

土地測量
合資會社 羅津工務所
本町一丁目

金物商
小川要助

滿鐵建設事務所
所長 桑原利英
庶務長 野本謙治
築港長 福島三七治
線路長 沼崎寧
土木長 荻野朝陽
建築長 杉野謙三
機械長 成瀨武

姜東明

阿部喜造
雄基港新町

土地建物賣買
金錢貸借紹介業
裵在春

申敬天

北洋材特殊材製材販賣
羅津製材所
古村米次郎

滿洲土木建築協會支部

西松組
大林組
大倉組
長門組
松本組
鐵道工業
阿川組

羅津旅館組合

咸北自動車株式會社
羅津出張所

北鮮興業株式會社
專務取締役 貴田岡照見

京城日報販賣店
明治製菓特約店
煙草小賣店
大善
松本町六番

羅津料理屋組合

喫茶 ツバメ

割烹
時壽
時壽 時丸 時[illegible] 時次郎 時榮 時若 一馬

料亭
梅乃家
藝者
梅千代 光勇 君奴 京子 玲子 玉樂 爾豆 ゝ奴
仲居一同

割烹
八千代
千代ケ岡

天婦羅
天原

土木建築請負
西田明義

カフエー
ミカド
松本町

李鍾涫

洋服メリヤス商
金又顯

三曲 壽くらべ
◇夜八時半◇　箏　萩岡松韻

前弾シテ「壽はしゆんにして千歳ひいで、またさら宿の　ツレかぎりなき、雨の星の影ひたす。岩根の波の名に高き、天の橋立ふみも見ず。ワケ　月雲花のをり〳〵に都の手ぶりうとからず　ワケ心もかろき春風に。　ワケ青柳とつて青柳の、糸くり出す一瑞舟。ワケかつをつり舵つりほこり。七月盆　宿路わすれて住の江や。ツレ浦わ遥かにこぎ出でぬ合シテ　ア、いぶかしや、まさしく聞りし鶴なるを。ワケ　いとやんごとなき上臈の。をればこぼるゝ笑のつゆ。初花さくらに盤の初音そへたらばかりなり。合シテ　我はそもたつの都のものなるが、君をともなひ申さむ。ツレ　いざもろともに龍島は。とこよの國にいたりけり。シテ　わだつみの。わだつみの神の宮居のうちのべのツレ　妙なるうちにいつまでも。思ひなぎさにうちつれて。貝やひろはむ。玉やひろはむ。合　君がえにしはむらさきの。ワケ　深き色貝千種貝。ワケ　たまのあふせはなわだに。ワケ　思ひとほした玉だれは。ワケ　すだれ目とのへだてはうしと。くねる風にみたれぬ玉寵。ワケ　なでし目もとのしほ目は。ワケ　なでしこ目のしどけなく。物思ふとは白玉か。シテ　何ぞと露のあだ言葉つい口玉にかけられて。ツレ　手枕ふれし朝寝髪。たのしき中にふるさとを。かつしのばれて立ち踊る。乙女があたへし玉くしげ。明けてのどけきさゞらぎの。花のむしろにまとゐして競くらべ千代くらべ。山にくらべて此君の。高きよはひを祝しけり

神樂調
太神樂　夜七時半

丸一鏡味小仙

トントントンとお正月の街々に響く太神樂丸一の道太鼓は今猶昔ながらの古風を傳へてお正月風景として初春氣分極めて濃やかなもの最初は壽祝獅子、掛り、下り葉節の舞狂から下々手狂ひと賑やかな鳴物のはやしにつれて丸一獨特の獅子舞ひがあり、剛廻りの風俗よろしく噺鞨の曲に入り賑やかに終る

猫忠
落語◇午後零時五十分◇

桂ざこば

次郎吉といふ若い低氣の男がありました。この男が浄瑠璃の稽古に行き、千本櫻といふ芝居をして繰々様々な大失敗をして人々の笑ひを招くといふ話

忠信の物語りから始まつて結局千本櫻の芝居にとりかゝりますがいろんな役柄が出來たあとで靜御前の女役が不足らない。此の時唄

珍談の次郎冠「こゝの師匠、きりようと云ひ、聲と云ひちやんと出來てるやないか、ナー和藤兵」と云ふと師匠の愛猫が顔を上げて「ニヤーオ」

若菜
二回合奏　四日晩六時廿五分

尺八　森田仙堂　三味線　宮田かの

年はまだ、幾日も經たゝぬ姫竹に今朝そよ〳〵の春風を、我が知り顔に盤の、百々囀びの音を立てゝうたひ連れ立ち乙女子が、摘むや千歳の初若菜。若菜摘む手の柔しさに、梅が枝に囀づる、百千鳥の聲そへば、色さへ、香さへめでたき

けふの番組

三日　水曜　元始祭

皇太子殿下御誕生奉祝記念（第六日）

第一放送
正午　時報　今日のプログラム發表
午後〇時五分　氣象通報
同〇時三〇分　ニュース
同〇時五〇分　落語　猫忠　桂ざこば
同一時二〇分　音曲漫談　桂吾ん平　桂丁次
同二時（福）宮幣大社宮崎宮玉取祭實況＝福岡市外宮崎八幡宮樓門前より中繼
同二時二〇分（東）ラグビー試合實況　早大對同志社ラグビー戰＝明治神宮外苑競技場より中繼
同六時（名）シロホン　指揮並ピアノ伴奏　名古屋みどり音樂會員　吉川翠芳
一、合奏（イ）年の始（ロ）都のぼり（ハ）菊の花（ニ）桃太郎　文部省唱歌
二、獨奏　長唄「鶴龜」　吉川翠芳編曲
三、合奏　日の出行進曲　同
同六時二〇分（東）コドモの新聞　園田五十二
同六時二五分　管絃樂　部々雅坊團歌
同七時　ニュース　天氣豫報
同七時三〇分（東）常磐津　常磐津松老太夫　常磐津文字兵衛　外
同八時（東）講演
同八時三〇分（東）三曲　壽くらべ　箏　萩岡松韻　箏　萩岡松柯　三絃　高野松琦　尺八　杉錄堂
同八時五〇分（大）歌謡レヴュー　JOBK文藝部選
一、混聲合唱　皇子生れ給ひぬ　花田比露志詞　山田耕作曲　コーラナニワ　指揮　山田耕作
二、新尺八樂　瑞垣　角野錦生作曲　中音尺八　角野錦生　同　福田竺生　高音尺八　石田郁生　同　日下部錦康　低音尺八　小澤紫生　同　三木笙生　箏　池野淑生　十九絃箏　鈴木美生
三、詩曲獨唱　ふたつの讚ぎうた　宮田修花詞　宮原禎次曲（その一）皇太子御誕生奉祝歌（その二）親王さまの頌　金森愛子
大阪ラヂオ・オーケストラ　指揮　顧問多河雄
四、長唄　春の壽　杵屋佐吉編曲　唄　杵屋勝五郎　三味線　杵屋佐吉　同　杵屋佐次郎
五、吹奏樂　行進曲　萬歳　林　大阪府音樂隊　指揮　林亘
同九時三〇分（東）時報　氣象通報　翌日のプログラム發表

第二放送
午後〇、五〇　歌謡拔萃　金如蘭
同一、二〇　映畫物語　朴膺甲
同六、〇〇　童話　李元珪
同六、二五　新春講演（三）　朴淳鎬
同七、三〇　皇太子殿下御誕生奉祝記念講演　李源甫

四日（木）

皇太子殿下御誕生奉祝記念（第七日）

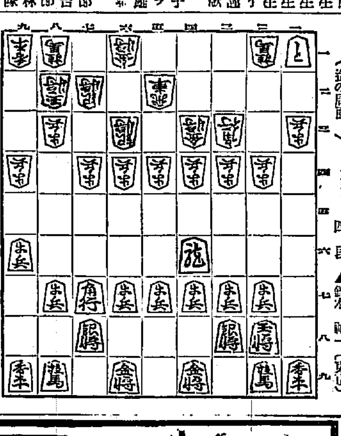
第一放送
午前七時三〇分（東）ラヂオ體操
同一〇時　氣象通報
同一一時五分　料理獻立、日用品値段、鮮魚卸相場　京城府營、水産市場發表
正午　時報、今日のプログラム發表
午後〇時五分　和洋合奏　浦島　新田　ソウル調和樂團　指揮　村谷樂平
同〇時四〇分　ニュース
同四時　ニュース、職業紹介事項
同六時（東）
同六時二五分　尺八合調と二曲合奏
一、二曲合奏　若菜　尺八　森田仙堂　三絃　宮田かの
二、尺八合調　祝の調べ　尺八一部　森田仙堂　尺八二部　宮谷仙幽
同七時　ニュース、天氣豫報
同七時三〇分（東）謡曲番囃子
同八、〇〇　吹奏樂　救世軍バンド
同八、三〇　歌曲　河圭一
同九、〇〇　俗謠　李眞鳳
新能―東京水道橋寶生會館より中繼―　シテ　寶生重英　ワキ　寶之桐谷正治　立衆　武田喜男　地謡　野口兼資　同　桐谷正治　同　武田喜男　笛　藤田己久馬　小鼓　幸悟朗　大鼓　川崎利吉
同八時　講演　年頭の所感　朝鮮軍司令官　陸軍中將　川島義之
同八時三〇分（東）義太夫　野澤吉右衛門　野澤芝金
同九時一〇分（東）清元　四季三葉草　淨瑠璃　清元壽久太夫　同　清元梅壽太夫　同　清元梅寿太夫　三味線　清元梅吉　上調子　清元梅次
同九時三〇分（東）時報、ニュース、氣象通報、翌日のプログラム發表

第二放送
午後〇、〇五　獨唱　徐祥鎬
同六、〇〇　童謠　巣鴨幼年日曜學校
同六、二五　新春講演（四）　李花珠
同七、三〇　皇太子殿下御誕生奉祝記念講演

將棋新手合（四）
於東京市日本橋區蠣殼町二ノ七　滯呂木將棋所

左香落　四段　△飯塚勘一郎（東京）　六段　▲鈴木賢一（東京）

（圖は九六歩迄の局面）



△ナシ　持駒　滯呂木　▲鈴木氏　持駒　歩

△二一角　▲二三桂成　△同　桂　▲二四歩　△二二歩　▲一六角
△三二角　▲二三歩成　△同　歩　▲八八角　△五五歩　▲五八金左
△四五歩　▲六六歩　△七三桂　▲六七銀（以下次號）

（滯呂木七段講評）（下手）一一歩と成つた經緯手段で、一三香と成つたが自玉のコビンが薄くなるので疑問の攻めである

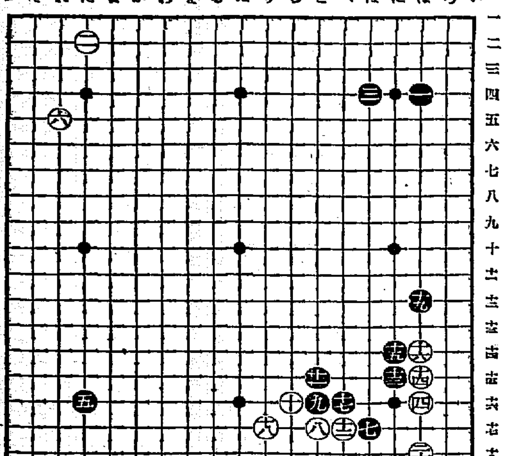
（上手）一三の桂で二五へ逃げる手はあるが、一三歩成、同飛三三角と逃げてよいやうだが、敵に桂を二六歩と突かれて助からないから、三三角と辭に受けるのはよい手である

（下手）八八角と逃げたのは敵に香を逃す關係であるが甚だ弱い。或は二五飛と出て敵の應手を觀ふ處である

（下手）五五歩と位を占め、續いて四五歩と角將の活用を圖るのは良い捌きである

（下手）六七銀と上つて駒の連絡をつけて置くのは至當である

日棋本院　昇段大手合戰譜【一】
三段　中山季麿　初段　松林茂比古



●一　は四	○二　た三
●三　ほ四3	○四　は十六
●五　た十六4	○六　れ五4
●七　ほ十七	○八　と十七
●九　と十六20	○十　ち十六
●十一　と十五	○十二　へ十七
●十三　に十五	○十四　は十五
●十五　に十四	○十六　は十四
●十七　へ十六	○十八　り十七19
●十九　は十三2	○二十　は十八1

（一分以内は切捨）

所要時間累計（白…〇時二五分　黑…〇時二九分）

（制限時間各七時間）

對局者の言葉
（白）八はこの外に十八の三間バサミ「ち十七」の二間バサミも勿論あるところです

（黑）九、十一もこのツケノビに限つたことはないのですが―

（黑）十三を「ほ十六」に立つところでは白十六黑十三の次に白「ろ十七」とヒラク型を採られるかも知れません

（白）十八で「に十六」にマガリ黑「ほ十六」白「に十三」とヘネ、黑「ち十七」白「に十八」が最も一般の定石ですが、譜の如く十八とカケツグ型もあります

（黑）十九で「は十三」にオサヘると白十九とヘサミツケられ黑「ろ十三」白「に十三」とキラれて斷然をきはめるのです

戰の跡
（白）二十は「は十七」にサガる意味もありました

○白十八までは往々見る型であるが黑は白の意向を察し、紛糾を避けて十九と外した

○この時白二十とトブのと、これを「は十七」にサガるのとの差は服者が後に黑「に十六」と忍びツケられ、つゞいて黑「は十七」白「ろ十七」黑「に十八」の劫爭含まれる眼みがのこる一方、後者は他日、黑「に十八」のコスミで利かされることが豫想されるが白「ほ十八」とヘネてワタること になるものとすると黑の二十よりほ「は十七」とサガる方が有利といふやうな差である

釜山府辨天町二　釜山專賣局出張所　所長　篠崎龍太郎

釜山府辨天町二　公證人　新藤寛三郎

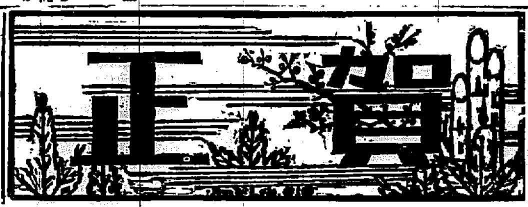
釜山府榮町　嶺南繩叺株式會社

慶尚南道水産試驗場　場長　河西次男

釜山棧橋食堂

朝鮮總督府獸疫血清製造所　所長　昆野恒太郎

釜山郵便局長



釜山無盡會社

慶尚南道　東部漁業組合會

釜山府大倉町　星野政太郎

慶尚南道　漁業組合聯合會

穀物檢査所　釜山支所

朝鮮[illegible]釜山支店　支店長　高井春五郎

釜山府榮町　株式會社　佐藤商會　釜山支店

朝鮮運送會社　釜山支店長　白垣善四郎

釜山府大新町　八幡行策

朝鮮總督府水産試驗場　場長　長友寛

朝鮮興業會社　釜山支店

釜山府大倉町一丁目　朝鮮海運會社

釜山稅關所　職員一同

釜山牧ノ島　府會議員　白石馬太郎

釜山石炭商同業組合
合資會社　大野商店
梅根商店
山上石炭部
越田商店
江頭商店
合資會社　朝日商會
佐治商會
株式會社　三國商會

朝鮮瓦斯電氣株式會社　釜山府富平町

釜山商工會議所　會頭　香推源太郎

朝鮮紡織會社　釜山府凡一町

釜山府本町　迫間房太郎

社團法人　釜山銀行集會所

釜山酒造組合

東萊懇談會

釜山鐵道病院

釜山海運業組合

釜山府本町　株式會社　立石商店

朝鮮金融組合聯合會慶尚南道支部

釜山築港合資會社

大日本モリス興業株式會社　釜山支部長　桐岡槌雄

癩病專門藥強壯チモール丸　製造發賣元　回春藥院　釜山府草梁町

釜山府本町　株式會社　本嘉納商店　釜山支店

釜山府水晶町　加藤精米所

釜山府大廳町　南朝鮮信託會社

釜山府大倉町　朝鮮汽船會社

株式會社伊藤商行

朝鮮計器株式會社

忠南江景　合資會社　荒巻醬油釀造所　電話一二三番　振替京城二一四四八

論山扶餘　郡内郵便所長一同

扶餘郡公立小普通學校長

論山郡農會

論山郡朝鮮酒々造組合

論山公立初等學校　職員一同

京城府岡崎町九二　無砂搗胚芽米元祖　龍山精米所　電話龍山三六番

京城府元町二丁目　銘酒漢陽釀造元　畠山酒造場　電話龍山一五四番

京城府元町二丁目百番地　クームヒン株式會社　電話龍山三七〇・四二四番

京城府岡崎町　淺川巖次　電話龍山九九一番

朝鮮總督府鐵道局
澤崎修
荻原三郎
佐藤作郎
備藤祐盛
永田光之助
清水幸次
福見貞治
小林利一

京城岡崎町　山名松太郎

朝鮮書籍印刷株式會社

合資會社　泰明商會　京城出張所

京城府竹添町二　杉山製作所　電話光化門一八一・五四五番

諸機械建築材料　京城府古市町一九　青木商會　電話本局長三五六六・四五三八番

朝鮮精米株式會社